

高知大学医学部  
外科学講座外科1

# 楷風

同門会誌 第14号  
2019年(令和元年)

## 外科学講座外科1教室の大目標

# Academic Surgeonの育成

研究マインドを持った手術の上手な外科医の育成

### 目標達成のための三つの課題

#### ■ 医学教育の充実

母校愛を培う医学教育

#### ■ 良好な手術成績の達成

良好な手術成績は良好な人間関係から

#### ■ 高知発の優れた研究を世界へ発信

すべての研究は英語論文で完結

# 目次

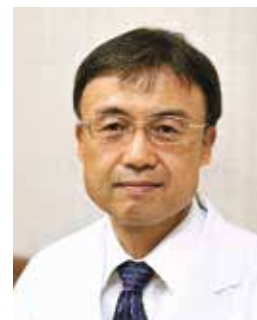
■ 巻頭言 .....	花崎和弘 .....	1
■ 教室員集合写真 .....		1
■ スタッフ紹介 .....		2
■ 新入局員挨拶 .....	岡田衣世 .....	2
	小松優香 .....	2
	前田将宏 .....	2
■ 教室の診療研究活動報告		
食道 .....	北川博之 .....	3
胃 .....	並川努 .....	3
肝胆膵 .....	上村直 .....	5
大腸 .....	岡本健 .....	6
小児外科 .....	大島雅之 .....	7
ヘルニア .....	山口祥 .....	8
乳腺・内分泌 .....	杉本健樹 .....	9
■ 国際医療貢献 国際交流 ～ウズベキスタン～ .....	小林道也 .....	11
■ 共同研究活動報告 .....	横田啓一郎 .....	12
■ 関連病院寄稿		
医療法人仁栄会 島津病院	島津栄一 .....	13
医療法人白井会 田野病院	白井隆 .....	13
社会医療法人近森会 近森病院	八木健 .....	14
医療法人仁栄会 島津病院	西家佐吉子 .....	15
社会医療法人仁生会 細木病院グループ	細木秀美 .....	15
特定医療法人仁生会 細木病院	上地一平 .....	16
高知生協病院	川村貴範 .....	17
高知県立 幡多けんみん病院	秋森豊一 .....	17

■ イベント・Happy News .....	19
■ 第14回楷風会賞 受賞者 .....	前田 広道 .....27
■ 第14回Impact Factor賞 受賞者 .....	北川 博之 .....28
■ 学外研修報告	
高知赤十字病院	宇都宮 正人 .....29
兵庫県立こども病院	藤枝 悠希 .....29
■ 医局事務だより .....	30
■ 手術件数 .....	31
■ 業績:論文発表・学会発表・Grant .....	33
■ 会員名簿 .....	52
■ 楷風会会則 .....	62
■ 編集後記 .....	花崎 和弘 .....65



## 同門会誌(年報) 第14号 巻頭言

2019年(令和元年)11月14日から16日の3日間、第81回日本臨床外科学会総会を「地域から世界へ発信する臨床外科学: Staying Local, Moving Global」をテーマに高知市で開催し、無事に終えることができました。会期中は、3,397演題が発表され、5,000名を超える方々にご参加いただきました。令和元年という節目の年に、輝かしい伝統と歴史を有する本総会を高知で初めて開催しただけでなく、「秋晴れ」の晴天にも恵まれ、盛会のうちに終了できたことを大変嬉しく、誇りに思います。これも偏に跡見 裕学会会長をはじめとする参加者および関係者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



花崎 和弘

参加者の皆様にはご不便をおかけし、大変申し訳なく思っています。一方、天地人が最高の形でミックスされ、ビッグな学術集会を人口30万人余りの高知市で成功させたことの大きな意義を感じています。私は才能や実力には恵まれていませんが、小さい頃から運だけは強く、練習よりも本番で力を発揮するタイプです。今回は自分自身の人生の集大成ともいえるイベントを最高の形で飾ることができたことは望外の喜びです。特に今回は教室スタッフだけでなく、民間企業やホテル旅館組合を中心に高知県民からも格別なご尽力とご支援をいただきました。まさに「幸運は人が運んで来る」のだと再認識させられました。心より御礼申し上げます。

2020年は第38回日本ヒト細胞学会(令和2年8月22日・23日)および第58回日本人工臓器学会大会(同年11月12日-14日)を主催させていただきます。特に人工臓器学会は新理事長として開催させていただく名誉もいただきました。

私の願いはこうした全国学会を高知で開催することにより、①高知県の知名度が上がり、経済的に潤い、活性化されること、②地方でもやればできるという勇気や希望を与えられること、③教室スタッフが成長するだけでなく、高知大学・高知県全体の発展にも寄与することです。

今後ともご指導・ご支援を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 教室員集合写真「さくら道」



2019(平成31)年4月1日撮影

## 【スタッフ紹介】

職名	氏名
教授(附属病院顧問) 光線医療センター センター長	花崎 和弘
教授(医療学講座医療管理学分野) がん治療センター センター長	小林 道也
特任教授	大畠 雅之
准教授(病院教授) 乳腺センター センター長 がんゲノム医療センター センター長	杉本 健樹
講師(病院教授)	並川 努
講師(医療学講座医療管理学分野)	岡本 健
講師	駄場中 研
助教(学内講師・医局長・病院准教授)	北川 博之
特任講師	前田 広道
助教	坂本 浩一
助教	辻井 茂宏
助教(病棟医長)	上村 直
助教(外来医長)	沖 豊和

職名	氏名
助教(手術部)	岩部 純
特任助教	小河 真帆
特任助教	宗景 匡哉
医員	福留 惟行
医員(病院助教)	藤澤 和音
医員	谷岡 信寿
医員	山口 祥
医員(病院助教)	横田 啓一郎
医員	岡田 衣世
医員	前田 将宏
事務補佐員	川村 麻由
事務補佐員	菅野 真由
事務補佐員	梶原 愛
事務補佐員(医療秘書)	川村 香奈
事務補佐員(乳腺センター)	辻岡 織江

### 岡田衣世先生

2019年度に外科1に入局しました、岡田衣世と申します。小さい頃から夢だった外科医への一步を尊敬する先生がいる高知大学外科1で歩み始めることができ、とても嬉しく、身の引き締まる思いです。まだまだ医師として未熟で至らない点が多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



### 小松優香先生

この度第一外科に入局致しました、小松優香と申します。2年間の初期研修の中で手術の面白さを知り、また笑顔で帰っていく患者さんの姿を見るのが大変嬉しく、外科医の道に進もうと決めました。何事に関しても決して器用な人間ではありませんが、一步一步着実に前進していきたいと思っております。御指導御鞭撻の程、よろしくお願い致します。



### 前田将宏先生

2019年度から第1外科に入局いたしました、前田将宏と申します。私は学生時代にお世話になった第1外科で腹腔鏡手術などに興味を持ち、外科医の道を目指しました。4月から大学病院で後期研修を開始させていただく中で、手技や知識を身につけ外科医として成長すべく日々精進して参りますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



新入局員挨拶

# 教室の診療研究活動報告

## 食道

北川 博之

上部消化管グループの食道班は、北川、岩部先生、横田先生を基本メンバーとして、再建時には他のグループからもお手伝いいただきました。皆様、いつもありがとうございます。

岩部先生は国立がんセンターでの研究内容を論文発表し、学位を取得しました（拍手）。横田先生も仲先生のご指導の下で基礎研究に奮闘していて、結果を AACR に発表しました。論文化が楽しみです。

資格では、横田先生が外科学会専門医を、北川は消化器病学会専門医と外科学会指導医を取得しました。

2019 年の手術症例数は以下の通りです。

食道切除術	23 例（咽喉頭食道全摘 1 例含む）
頸部食道穿孔縫合術	1 例（異物誤飲による）
食道裂孔ヘルニア修復術	1 例
食道ステント留置術	1 例
胃管癌手術	1 例
非手術治療	18 例（放射線治療 9 例含む）
計	45 例

手術方法では縦隔鏡を用いた左上縦隔郭清を行なっています。

周術期管理としては、アセトアミノフェンの定時静脈投与を行う鎮痛方法を導入して、極力痛みを感じないようにしています。また過去に造設した空腸栄養チューブ固定部の捻転防止目的に、十二指腸チューブ造設に変更しています。また解剖学的に反回神経の走行異常が疑われる症例では、神経モニタリングシステムを用いて反回神経の同定を行いました。これらの結果を論文発表しました。

また下行大動脈左側の単発リンパ節再発に対する左胸腔鏡下切除術を岩部先生が論文発表しました。2020 年も引き続き臨床経験を論文化してエビデンスの創出・蓄積に努めます。

## 胃

並川 努

2019 年の上部消化管の診療は、北川、岩部、横田、前田将宏そして初期研修医の先生方とともに行わせていただきました。岩部、横田の両先生は疾風怒濤の如く活躍をしてくれまして大変助けられました。手術症例は下記の表に示しておりますが、ロボット支援下手術が保険適応となり、少しずつではありますが、安全性を担保しつつ慎重に症例を重ねております。また昨年同様 29 症例の治療切除不能進行・再発胃癌の患者さんの治療も行わせていただきました。今年は新たにチミジン誘導体が胃癌治療においても使用できるようになり、7 系統の異なった作用機序を持つ薬物を有効に使用できるようになりました。これらの薬剤を病状の変化に合わせて適切に切り替えしていくタイミ



ングを見逃さないようにマネジメントしていくことが要求されます。また、薬物治療から始めて conversion surgery を考慮する症例は少数ながら確実に増加してきており、ゲノム医療とともに多種多様な個別化治療を看護師、薬剤師さんはもちろんのこと、関連の専門領域の先生方と共にチームとして考えていきたいと思っております。

「進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時における SPP-005 を用いた光線力学診断の有効性及び安全性を検討する多施設共同試験（検証試験）」は大阪大学をはじめとした多施設の先生方とともに実施させていただき、医師主導治験の困難性を実感しながらもなんとか予定登録を完了することができました。臨床研究コーディネーター、CRC、事務の方々のお力添え無しにはなし得ない仕事と思っております。改めまして御礼申し上げます。患者さんに新規医療をお届けできるように引き続き頑張りたいと存じます。その他、多種の多施設共同研究、共同研究に参加させていただいており、医師主導の多施設共同第Ⅱ相試験として「治癒切除胃癌 Stage III 症例に対する術後補助化学療法としての S-1+Oxaliplatin 併用療法 (Treatment using oxaliplatin and S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage III gastric cancer: a multicenter phase II study: TOSA trial)」の症例登録も少しずつではありますが進めております。

その他の研究としては、「早期胃癌に対する内視鏡的粘膜切除術における 5- アミノレブリン酸を用いた光学的診断法の開発応用」、「腸音モニタリングシステムを用いた全身麻酔下手術周術期における腸蠕動運動の解析」、「人工膵臓を用いた外科的糖尿病の新たな血糖管理法の開発と発症分子機構の解明」等に取り組み、多施設共同研究として、「胃上部癌、食道胃接合部癌に対する術後 QOL 向上に寄与する胃切除術式、再建法に関する研究」、「化学療法未治療の高齢者進行・再発胃癌に対する CapeOX 療法の第Ⅱ相臨床試験 (TCOG GI-1601)」、「切除不能進行性胃癌症例におけるニボルマブのバイオマーカー探索を含めた観察研究 (DELIVER 試験) :JACCRO GC-08」、「切除不能進行再発胃癌に対するナブパクリタキセルとラムシルマブ併用療法の隔週投与方法における有効性と安全性を検討する第Ⅱ相試験 (JACCRO GC - 09)」、「SAMIT バイオマーカー付随研究 :SAMIT 試験「漿膜浸潤胃癌症例を対象とした術後補助化学療法の Factorial Design によるランダム化比較試験: フッ化ピリミジン単独と Paclitaxel →フッ化ピリミジン逐次併用の比較および UFT と TS-1 の比較」バイオマーカー付随研究」等に参加させていただいております。

さらに、胃癌治療ガイドラインや静脈経腸栄養ガイドラインの策定にも関わらせていただき、その道を牽引されている先生方のご指導を賜りながら、新たな指針作成にコミットできるように頑張りたいと思っております。また第 81 回日本臨床外科学会を高知で開催させていただくにあたり大変ではありましたが、大規模な学会の準備に携わらせていただき貴重な経験をさせていただきました。その他、花崎教授のご指導をいただき教室の先生方の協力を得ながら第 123 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会を盛会裏の内に開催させていただくことができました。重ねて御礼申し上げます。

このような臨床研究、社会還元事業を含めた成果を 2019 年は学会および研究会において胃関連分野で 35 の演題、誌上で 7 編発信させていただくことができましたが、さらに新たな研究に愚直に取り組んでまいりたいと存じます。私たちの診療および研究が行えるのは同門の先生方をはじめ、看護師、薬剤師、栄養士、医療スタッフ、事務を含めた関連の方々のご協力、ご支援あつてのことであり重ねて御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。



2019年の手術症例数は以下の通りです。

開腹胃全摘術	14例
腹腔鏡補助下胃全摘術	1例
ロボット支援下胃全摘術	1例
開腹幽門側胃切除術	20例
腹腔鏡補助下幽門側胃切除術	9例
腹腔鏡補助下幽門輪温存幽門側胃切除術	1例
ロボット支援下幽門側胃切除術	4例
噴門側胃切除術	1例
腹腔鏡補助下噴門側胃切除術	1例
ロボット支援下噴門側胃切除術	1例
胃部分切除術	11例
診断腹腔鏡	2例
その他	7例
計	73例

## 肝胆膵

上村 直

2019年肝胆膵グループは、4月から谷岡信寿が大学に戻り、前田将宏が後期研修としてチームに加わり、花崎和弘教授、上村直（助教、H18年卒）、宗景匡哉（特任助教、H19年卒）、谷岡信寿（医員、H26年卒）、前田将宏（医員、H29年卒、上部消化管グループを兼任）の主に5名で診療にあたりました。また、8月には初期研修医の丸井輝先生に2ヶ月研修してもらいました。大黒柱である花崎教授以下は比較的若手を中心とした体制ではありますが、若い力がみなぎる活気あるグループです。

肝胆膵グループの2019年手術総数は125例で、肝切除数は46例、膵切除術は13例、胆嚢摘出術48例、その他18例でした。肝胆膵外科高難度手術は31例あり、うち動脈再建を伴う高難度手術を2例施行しました。1例は肝内胆管癌（MF+PI）で肝左葉尾状葉切除・肝外胆管切除再建・右肝動脈合併切除再建術を施行しました。もう1例は、食道癌術後ならびにIPMCに対するDP後の膵癌で、残膵全摘・右胃大網動脈切除再建術を行いました。動脈再建は心臓血管チームに依頼しいずれの症例も合併症なく退院されました。今後も動脈再建等、他診療科とのコラボレーションを要する場合にも診療科の垣根を越えて集学的治療を安全に提供していく所存です。

肝切除術数は少しずつ増加傾向にある中で、今年のtopicsとして腹腔鏡下肝切除術をようやく本格的に導入し4例に施行しました（腹腔鏡下肝外側区域切除術3例、腹腔鏡下肝部分切除術1例）。当グループではHALSを用いたHybrid肝切除に従来から力をいれてきたこともあって、腹腔鏡下肝切除術も遅まきながらスムーズに導入でき、いずれの症例も合併症なく術後平均6日で退院されました。まだまだ症例数は少ないものの今後積極的に腹腔鏡下肝切除術を行っていく所存です。

肝胆膵グループでは、安全かつ高水準の医療を提供できるよう引き続き精進しつつ、手術症例の増加を目指し一致団結して参りたく存じます。さらに膵臓学会認定指導医制度で2019年度花崎教授、上村、宗景の3名が膵臓学会認定指導医に認定されました。膵切除において高知県でも屈指の診療体制であり、膵切除数の増加を目指して、同門の先生方や地域の先生方には引き続き何卒御尽力、御指導、

御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

臨床研究では、従来から行っていました人工膵臓研究の他、免疫難病センター、消化器内科等と協力し下記の研究を行っています。地域から世界へ evidence を発信できるように進めて参ります。

- ・次世代型人工膵臓を用いた糖尿病に対する新しい血糖管理法の確立
- ・人工膵臓を用いた外科的糖尿病の新たな血糖管理法の開発と発症分子機構の解明
- ・腫瘍移植モデルにおけるサイトカインシグナル伝達抑制物質を用いた癌治療法の確立
- ・感染症、自己免疫疾患、癌におけるロイシンリッチアルファ2グリコプロテイン (LRG) の炎症マーカーとしての有用性に関する臨床研究
- ・膵癌の術前および術後予後予測因子の臨床応用に向けた前向き臨床研究
- ・膵切除における抗血栓薬服用歴が術後経過に及ぼす影響に関する研究（日本肝胆膵外科学会プロジェクト研究）
- ・消化器外科領域の手術施行日（曜日・季節）と手術成績の関係に関する研究（NCD データを用いた2019年度消化器外科領域新規研究）

また、私事で恐縮ですが、第81回日本臨床外科学会で大阪国際がんセンター 左近賢人先生の代役として日本大学 高山忠利先生とともにディベートセッションの座長を仰せつかりました。非常に緊張していましたが、高山先生から「いい機会だからがんばってやりなさい」と暖かいお言葉をいただき、何とか全うすることができました。このような貴重な経験をいただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、この経験を元にさらなる見聞を広げていきたいと考えております。引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。

## 大腸

岡本 健

### 大腸グループ診療研究活動

2019年の大腸グループは、今まで通り小林道也（医療管理学教授）をスーパーバイザーとし、3月までは岡本・前田・金川・福留、4月から金川が抜けて山口、そして8月からは藤澤が加わり、5人体制で診療を行っています。女性医師（藤澤、山口）が加わったことで多様性のあるグループになっています。初期研修では江端希澄（9月）にローテートして頂きました。2018年も当グループのローテーターは1名でしたので相変わらず外科志望の研修医は少ないままです。どうなる事でしょう。

2019年の大腸グループが担当した手術症例は昨年より19例減少の171例でした。大腸悪性疾患は93例（2例増加）で9割弱を腹腔鏡で行いました。前田、福留が内視鏡外科学会・技術認定医（大腸）の資格取得を目指しています。来年には、いい報告ができると思います。

研究のほうでは、前田が2016年から始めている臨床研究（リンパ節検索における脂肪溶解液の有用性）を論文発表することができ一段落がつきました。また、福留の「一時的ストーマに対する早期閉鎖の安全性に関する研究」は中間発表を行いました。2020年には症例登録が完了し結果解析ができる見込みです。グループとしては、新規の多施設臨床試験への参加はなかったため症例集積中の試験が少なくなっていますが、該当する症例がございましたら是非御紹介下さい。

2019年も無事診療することができました。グループの平均年齢は低くなりましたが、私は確実に年を取っています。老眼も進みついに遠近両用メガネを購入しましたが、手術の指導はまだ十分行うことができます。責任をもって患者さんに安全で質の高い医療を提供しますので患者さんをご紹介い

ただければ幸いです。昨年も申しましたが、全員が無理せず怠けず、昨今よく言われますワークライフバランスを保ちながら日々の診療、研究、教育を行ってまいります。今後ともよろしく願います。(敬称略)

## ■ 進行再発二次治療

1. FOLFOX plus panitumumab による一次治療抵抗または不耐となった RAS wild-type、切除不能進行・再発大腸癌に対する 2 次治療としての FOLFIRI plus panitumumab 療法の有効性に関する多施設共同第 II 相試験—Liquid Biopsy によるバイオマーカー発現の変化と抗腫瘍効果についての検討— (PBP study)

## ■ 前向き臨床研究

1. 後期高齢者低位直腸癌（高リスク pT1、低リスク pT2）に対する準標準的治療を評価する多施設共同前向き観察研究

## 小児外科

大島 雅之

2019 年 1 月から 12 月の小児外科グループの大学病院での診療は 2018 年度と同じく大島、坂本が中心となり行ってきました。手術数は 75 例（鏡視下手術 22 例）となり 2018 年に比べると 20% ほど減少しています。数年前から毎年テレビ、ラジオ、新聞を定期的にご利用して小児外科疾患への認知を始めてから外来への新患紹介は順調に増加していますが手術件数に結びついていないのが現状です。県内人口が 70 万人を割り、出生数も減少していることからますます小児外科への依存が減少することが予想されますが、県内で治療が必要な患児のために維持しなければならない診療部門であると考えています。

2020 年 4 月に坂本先生が一身上の都合で当科を離れることとなりました。2012 年途中から当科の小児外科を担当し、翌 2013 年からは年間手術症例が 50 例維持できるようになり県内小児外科医療に多大の貢献を戴きました。施設は変わりますが新天地でのご活躍を期待します。

現在 3 つの臨床研究を進めています。



### 1.AMED\_胆道閉鎖症診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究

胆道閉鎖症 (BA) のスクリーニング検査としての尿中硫酸抱合型胆汁酸 (USBA) 測定の有用性を長崎大学小児外科と共同研究を行っています。2019 年度が最終年となり現在 2010 年から 2018 年のデータ解析を行っています。

### 2. 便色認識アプリケーションを用いたフィールド実証研究

BA の早期スクリーニングとして簡便性、低コストの面から便色カラーカード (CC) の利用が国内・海外では広く用いられています。便色 CC 法では児の便を CC と比較するため肉眼では微妙な色調・色彩の区別が難しく、正常便と思われた児からの BA 発症が問題となっています。便色認識アプリケーションは AI (人工知能) を応用した技術で便色判定できないかとのアイデアで 2016 年に基本プログラム

が聖路加国際大学免疫学センターで開発されました。私たちは聖路加大学との共同研究でこのプログラムを利用した便色健診システムを立ち上げ2018年の科研費に採用され、2018年11月に高知大学倫理委員会から承認を得ました。新たに開発したアプリケーションを組み込んだタブレットコンピューターを用いて新生児・乳児健診で便の撮影を行う実証研究を2019年1月から開始し、高知大学、県立あき総合病院、幡多けんみん病院、高知ファミリークリニックの4施設で運用しています。

### 3. オラネキシジングルコン酸塩を用いた小児術野消毒の臍内細菌に対する効果についての検討

本邦で開発された最も新しいオラネキシジングルコン酸塩（オラネジン）消毒薬は無色透明でポピドンヨードやヘキシジンと効果に遜色なく従来の消毒薬で効果が少なかった細菌への効果が期待されています。小児外科手術では鏡視下手術の多くで臍部アプローチを利用することが多く、今回オラネジンの臍窩への消毒効果に特化した臨床研究を2019年8月の倫理委員会の承認を得て開始しています。



「はい、すぐ行きます」「(術前の)準備はこちらでしますので、休んでください」「(手術は)終わりましたので、先生は休んでください」小児緊急手術で坂本先生と、ご一緒した時の会話では、これらのフレーズが強く印象に残っています。電話ではなく、まずは診察するという姿勢で、緊急手術の際にはどんな時間でも、快く来院していただきました。そして、閉創と同時に当直医を休ませてくれる、自分に厳しく、他人にやさしい先生であると思います。小児外科医として、そして社会人としてのお手本を、常に私たちに示してくださったと思います。7年間、本当にありがとうございました。新たな目標に向かって九州へ旅立たれる、坂本先生のご活躍とご多幸を医局員一同、祈念しています。(医局員一同 文：前田広道)

## ヘルニア

山口 祥

私たちヘルニアグループは、若手医師を中心に診療を行っております。山口と藤澤先生、横田先生、谷岡先生、新入局員である前田将宏先生や岡田衣世先生とヘルニアに携わるメンバーも増えました。経験豊かな多くの先生方のお力をお借りして手術・診療を行いました。おかげさまで本年は合計54例の手術を施行することができました。2017年12月に腹腔鏡下ヘルニア修復術 TAPP 法を導入してから、現在当グループでは鼠径ヘルニアに対して積極的に TAPP 手術を行っており、本年は12例の TAPP 手術を施行しております。大きなトラブルもなく運営できているのも、支えていただい



いる先生方のお力添えの賜物です。

本年も安全性に配慮しつつ早期退院を目標とした周術期管理を行うとともに、日々研鑽し、学会活動や研究なども行えるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 乳腺・内分泌（乳腺センター / 臨床遺伝診療部）

杉本 健樹

2019年、乳腺内分泌外科の診療は乳腺センターを中心に杉本、沖、小河の3人に加え、4月から後期研修医の岡田衣世が加わり4人体制となりました。手術および病棟業務の支援を駐車場から受け大変助かっています。また、水曜日の午後には、いずみの病院の船越の支援を受け穿刺吸引細胞診を含めての年間200件を超える針生検の大部分を担当してくれました。

手術症例数は例年と同様ですが、8月のアラガンショック（低頻度ではありますがインプラント関連未分化大細胞リンパ腫の発症に関わるとして日本で唯一保険承認を受けていたアラガン社のテクスチャータイプの乳房インプラントが出荷停止・発売中止となった）以降、ほとんど乳房再建が行われていません。新たなスムーズタイプのインプラントによる再建の指導は2020年1月以降となる見込みです。

また、従来の化学療法、ホルモン療法や抗HER2療法に加え、mTOR阻害剤 Everolimus, CDK4/6阻害剤 Palbociclib, Abemaciclib, BRCA遺伝子変異陽性に対するPARP阻害剤 Olaparib、更にはTriple Negative乳癌に対する免疫チェックポイント阻害剤 Atezolizumab と次々と進行再発乳癌治療の分子標的薬が増える中、安全かつ適正にこれらの薬剤を投与し進行再発乳癌患者をサポートしていくために乳腺外科、形成外科、腫瘍精神科医、薬剤師、看護師（外科外来、外来化学療法室、乳癌認定）、MSW等多診療科、多職種が集まるカンファレンスを週1回継続して行い情報共有の場として活用しています。

乳腺疾患症例数	132件
原発乳癌	105件（100人、内5人同時両側）
乳房温存	40件
乳房切除	65件
内 センチネルリンパ節生検	76件、腋窩郭清 25件
内 ティッシュエクパンダー	7件
良性疾患	7件（再発 6件、その他 14件）
局麻下針生検	137件
Core Needle Biopsy	125件
Vacuum-assisted Breast Biopsy	12件
甲状腺・副甲状腺疾患	34件
原発甲状腺癌	11件
良性甲状腺疾患	12件
副甲状腺疾患	9件
再発	2件

臨床遺伝診療部では1月に認定遺伝カウンセラーが離職して以来、遺伝カウンセラーの不在が続いていて、厳しいスケジュールの中で臨床遺伝専門医の杉本が遺伝カウンセリングおよび遺伝学的検査、遺伝性腫瘍、特に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の家系員のサーベイランスやリスク低減手術を含む医学管理を担当しています。2018年はOlaparibのコンパニオン診断としてHER2陰性の進行再発乳癌患者のBRCA遺伝学的検査が保険適応となり、2019年には初発のプラチナ感受性卵巣癌患者にも適応となったこともあり、遺伝性腫瘍に対する遺伝カウンセリングは年間80件を超え、遺伝学的検査の件数も30件を超えています。

また、特筆すべきこととしては19年には産婦人科でリスク低減卵管卵巣切除（RRSO）を、乳腺センターでは乳癌既発症者のリスク低減対側乳房切除（RRM）をそれぞれ1例ずつ行ったことです。2020年4月には乳癌・卵巣癌既発症のBRCA遺伝子変異陽性者に対する予防手術（RRSOおよびRRM）が保険適用となることが決定しましたが、当院ではそれらの診療に十分対応ができるよう、臨床遺伝診療部、乳腺センター、産婦人科の協調体制を整えています。

また、臨床遺伝診療部では月1回、多診療科（乳腺内分泌外科、循環器内科、産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻科、病理等）かつ多施設（高知医療センター、国立病院機構高知病院、高知赤十字病院、県立あき総合病院、幡多けんみん病院、伊藤外科乳腺クリニック、くぼかわ病院、近森病院等）の医師による遺伝カンファレンスを行い診療科・施設を超えて遺伝性疾患の情報共有を行うと同時に専門医の育成に努めていて、この10年で10名の臨床遺伝専門医が誕生しました。乳腺センターの沖、岡田も秋からこのカンファレンスに参加するようになり、近い将来、保険で行われるHBOCのリスク低減手術やサーベイランスの体制構築のための準備をしています。現在の最大の課題は、診療科横断的に遺伝の専門家として活動できる認定遺伝カウンセラーの人材確保です。リクルート活動を継続して、なんとか新たに雇用ができるよう願っています。

2019年6月から保険適用となったがん遺伝子パネル検査、所謂「がんゲノム医療」に対応するために同月、杉本をセンター長にがんゲノム医療センターを立ち上げました。当初は、がんゲノム情報センター（C-CAT）、中核拠点病院（岡山大学病院）や遺伝子検査会社のポータルサイトと院内ネットワークとの接続の問題やがん遺伝子パネル検査導入時の入札、多職種による診療体制の構築など多くの課題を抱え、なかなか実際の検査に進むことができませんでした。秋以降、病理診断部・検査部の協力も得て、副センター長に就いた前田（広）、がんゲノム医療コーディネーターを担う3名の看護師および医事課職員とともに、院内外からがん遺伝子パネル検査を受けることができる体制とフローを作成、そして12月にやっと出検できたというのが現状です。今後も、課題を丁寧に解決しながら、「がんゲノム医療」を希望する患者に適正にがん遺伝子検査を提供し、可能な限りその後の治療に繋げるための診療科や治験を担当する他施設とのコーディネートを行っていく必要があります。

## 国際医療貢献 国際交流 ～ウズベキスタン～

### 医療学講座医療管理学分野

教授 小林 道也

2019年5月2日に高知大学医学部はウズベキスタンの Tashkent State Dental Institute と部局間協定を締結しました。これは私が2018年9月に同大学から招聘され、大学と現地の2つの教育病院で講演をさせていただいたことがきっかけでした。協定締結は現地で行いましたが、その際にも予定外のレクチャーを帰国日に依頼されました。

ウズベキスタンはご存知のようにシルクロードの要所でサマルカンド、ヒヴァ、ブハラなどの世界文化遺産がある美しい国です。資源も豊富で特に金の埋蔵量は世界4位でそのほかにウラン、銅、天然ガスなども豊富です。農産物も豊富で特に綿花が有名です。これまで渡航にはビザが必要でしたが2018年2月から30日以内のビザなし渡航が可能となりました。

ウズベキスタンの人たちは留学などというとな当然モスクワに目が向いています。さらにアジアでは韓国（第二次世界大戦後 Korean Community がウズベキスタンにあるようです。）に目が向いています。日本政府も今後ウズベキスタンを経済支援しており、交流が活発になってきています。

2019年11月7日から12月18日まで Tashkent State Dental Institute の外科の准教授である Dr. Sobirjon Mamarajabov が高知大学医学部に国費の研修生としてやってきました。私共で外国人医師臨床修練許可証（日本での限定的な医療行為が可能）を申請し、手術見学、介助、内視鏡診療見学などを中心に研修をしました。内視鏡診療部にもお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。外科では朝のカンファレンス、手術に参加しましたが、彼のためにカンファレンスのプレゼンテーションはすべて英語を使用してもらいました。花崎先生をはじめとして外科1の皆さまにはご不便をおかけしましたし、大変お世話になりました。彼の研修については高知新聞の記事、RKC 高知放送で紹介されました。ご覧いただいた方々もいらっしやると存じます。

ウズベキスタンとの今後の交流は令和2年度に、Tashkent State Dental Institute の学生を本学で受け入れる予定となっています。歯学部ですが、ウズベキスタンでは外科などの実習があるので、医学科学生と同じようなプログラムを用意する予定です。楷風会の先生方にはお世話になることがあるかと存じますが、その節は何卒よろしくお願ひ申し上げます。



Tashkent Medical Academy での講演



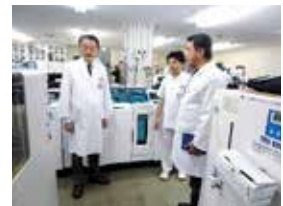
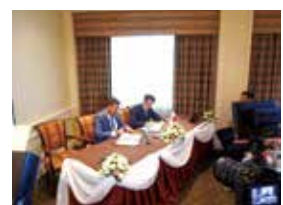
サマルカンド  
(2001年世界文化遺産)



ブハラ  
(1993年世界文化遺産)



ヒヴァ  
(1990年世界文化遺産)



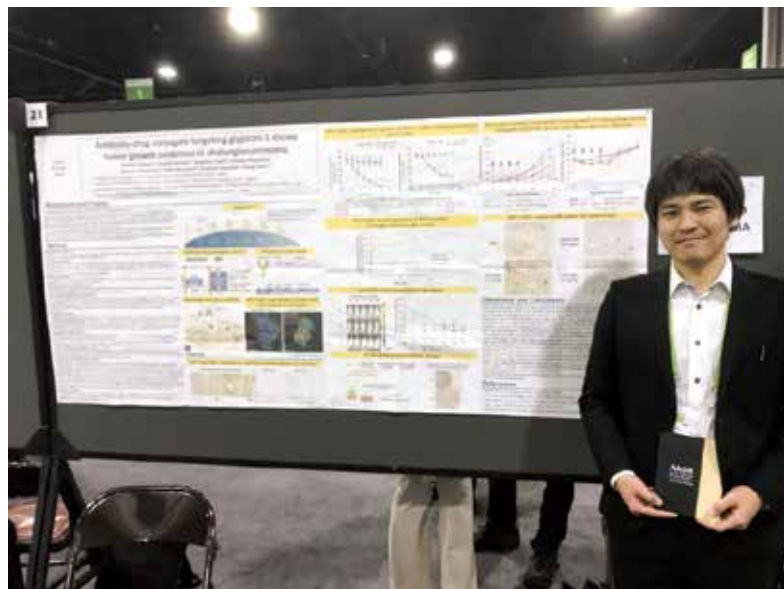
Tashkent State Dental Institute と協定締結  
(2019年5月2日)



## 共同研究活動報告

横田 啓一郎

2018年から高知大学免疫難病センターの仲哲治先生の下で、研究指導をして頂いております。当科からは、辻井茂宏先生、宗景絵里先生も同センターで研究活動をしております。仲先生のグループでは、新規癌抗原であるGlypican-1 (GPC1) を発見し、そのGPC1に対する抗体に抗癌剤を結合させたADC (Antibody-Drug Conjugate) を創出しています。現在、GPC1-ADCを用いた難治性癌の治療について研究しております。



2019年4月には、アトランタで行われたAACR Annual Meeting 2019に参加し、ポスター発表をしてきました。初めての国際学会への参加で緊張しましたが、なんとか乗り切ることができました。言葉の壁は非常に高かったです。2020年は、研究も3年目に突入するため、そろそろ一つの形にしたいと思っております。臨床と研究を兼務させていただいている現在の環境に感謝しながら、これからも日々精進して参ります。





## 関連病院寄稿

医療法人仁栄会 島津病院

外科 島津 栄一

4年前に花崎教授より第81回臨床外科学会を高知で花崎 和弘教授が主催することになったと告げられ、ついでには準備委員長を頼みたいと仰せつかった。

大変名誉なことであり、喜んでお受けしますと即答したが、どのように手伝えればいいのか判らず途方にくれたものでした。

本来ならば東京で行われた前回の第80回臨床外科学会総会に出席し、次回は高知で行うので是非多くの会員の皆様に出席してくださいと挨拶をするべきであったが、腰痛のため壇上に上がることも出来ず断念せざるを得ませんでした。その後の準備もコンベンションリンクージュにお任せして何も協力出来ませんでした。

ただ総会前日ゴルフ場で跡見裕教授、倉本秋理事長、和田洋巳院長、大西三朗くぼかわ病院院長とお会いし、夜は歓迎の小宴を開きましたが、跡見裕教授ほか皆様の豊かな教養と機知にとんだ会話に時の経つのを忘れるほどでした。

開会当日は不慣れでもあり下手な挨拶をして恥ずかしい限りでした。

時間のある時は演者の手術症例を見ていましたが、今は昔のスライドと違って動画になっており岐阜大学第1外科で消化器の手術をした頃を思い出し、つい興奮して自分も手術をしてみたい衝動に駆られました。

その夜の評議員懇親会やひろめ市場の親睦会では大学の同級生である癌治療学会理事長であった佐治重豊君にも会え、多くの大学の教授たちとも親しく会食ができたことは一生の思い出です。

ご指名をいただきこのような名誉ある学会の準備委員長を仰せつかり貴重な経験をさせていただいた花崎 和弘教授に心より感謝いたします。



医療法人臼井会 田野病院

理事長 臼井 隆

同門会の皆さん、新年おめでとうございます。令和初の新年を迎え、皆さんも張り切っていると思います。田野病院は昨年末に高知県医療審議会にて認可された19床の増床に対する対応開始の年になります。一般病床19床の増床で、地域包括ケア病床として運用を考えています。今回の経緯について少し説明をします。安芸医療圏では室戸病院の閉院に伴い、50床分が減少しましたが、地域医療

構想に基づいて検討された結果 19 床の不足が認定されました。その後、安芸区域の調整会議そして、県レベルの調整会議、そして医療審議会を経て知事の認可が降りました。これから設計、工事と進むわけですが、見込みとしては令和 3 年の秋頃になりそうです。病院としての診療能力の向上に役立つような、また、今まで以上に地域医療に貢献できるような増床増改築にしたいと考えています。田野病院が開院してこの 4 月で満 34 年になりますが、大学にいるときに室戸中央病院が開院、今、仁淀病院院長の松浦先生が初代院長で出向し、皆が緊急手術の応援に行ったり、釣りに行ったり、懐かしく思い出します。室戸中央病院は、現在、慢性期病院として頑張っています。田野病院が昭和 61 年 4 月 1 日に開院した少し後に開院した室戸病院にも外科から出向し、今は亡き川村先生、越知で開業している山崎先生、今は野市中央病院で勤務の山中先生達が勤務し、山中先生は途中から院長として務めました。そして閉院するまで院長として頑張りましたが、室戸病院を購入した県外資本が撤退を決めたことで閉院となりました。その後の室戸の救急は田野病院、県立あき総合病院、高知市内の 3 次救急病院に搬送されることとなります。満床で受け入れが出来ないこともしばしばであり、大きな問題になっています。田野病院の外科の手術症例は減少傾向であり、症例はあるのですが、ほとんどを紹介する状況です。寂しい限りです。研修医制度は大きくは変わりそうにありませんが、地域に外科医が増え、大学との連携の中でしっかりと、外科をアピールできる状況が来ることを願っています。最後に、令和 2 年、同門の皆様のご多幸を祈念しています。

## 社会医療法人近森会 近森病院

外科 八木 健

2019 年度の当科診療体制は、外科 1 医局から派遣していただいている津田晋先生に加えて、近森病院初期研修より高知大学外科プログラムに入った富田優香先生（秋に結婚されて「小松」に改姓）を派遣していただいております。北村龍彦医師、田中洋輔医師（乳腺・甲状腺）、坪井香保里医師、塚田暁医師の常勤合計 7 名で診療を行っております。また今年も医局からは週 1 回宗景匡哉先生が手術のお手伝いに来ていただき、主に肝胆道系疾患の手術を担当して頂いております。呼吸器外科に関しては山本彰医師が退職された後は、高知大学外科 2 医局より週 1 回穴山貴嗣先生に外来と手術のお手伝いをしていただいておりますが、2020 年 4 月より岡山大学から呼吸器外科医師 2 名が派遣される予定です。

さて 2019 年の高知県外科医にとっての最大のイベントであった、花崎教授と外科 1 教室の主催した日本臨床外科学会総会が大成功に終わり、本当におめでとうございませう。天候にも恵まれ、各会場では熱のこもったディスカッションがなされ、県外から来られた多くの方々が高知県の良さとともに高知県外科医の熱意を満喫されたのではないかと思います。花崎教授をはじめ教室員の皆様方の御尽力に心から感謝を申し上げます。

今後とも高知大学外科学講座外科 1 教室の発展を祈念しておりますし、当科としても微力ながらではございますが、お手伝いをさせていただければと思っております。

今後ともよろしく願い申し上げます。

平素より花崎教授をはじめ外科学講座外科1教室の先生方には大変お世話になり、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

また、いつも手術が必要な症例も迅速に対応して下さり、重ねて感謝申し上げます。

2019年度の外科の手術症例は、シャント造設術を含め、透析のためのバスキュラーアクセス関連を中心に272件でした。

時代は昭和から平成そして令和へと移り変わり、透析技術は格段に進歩しています。

巨大だった透析装置はコンパクトなものになり、さらに透析膜も改良され続けています。分かりやすい例で言えば、以前は透析患者さんといえど黒いイメージがありましたが、今では十分な毒素の排出ができるため、色素沈着が目立つことも少なくなってきました。一見しただけでは透析患者さんかどうか分からないくらいです。

また、高齢化が進み、透析導入年齢も上がってきています。ですが、その一方でシャント造設術の手術方法は基本的にはあまり変わりがないように思います。人工血管の材質、血管縫合の糸がいくらよくなっても、患者さんの動脈の血流量が少なければ、シャントはできません。患者さんから血液を取り出さなければ透析はできませんので、バスキュラーアクセスにも革新的な技術革命があればと、願うばかりです。

革新的と言えば、花崎先生が会長をされた日本臨床外科学会は革新的な学会であったと感じました。あれだけの大規模な学会を高知で開催されるにあたっては、本当に先生方の御苦勞があったことと思います。外科漢方研究会など新しい内容も大変勉強になりました。また、高知らしさを前面にだし、高知の良さをアピールして下っていたことにも感激致しました。高知アピール動画も大変美しく見入ってしまいました。地元のよさを前面にだす学会は他に参加したことがなく、心温まる素晴らしい学会に参加できたことを誇りに思います。(会員懇親会にどうしても何えず、カツオのたたきを食べられなかったことが残念です)

2020年には島津病院の体制も変わる予定です。

御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、御指導・御鞭撻頂ければ幸いです。

最後になりましたが、外科1教室の益々の御発展と先生方の御活躍をお祈り申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 25年後の高知県

先日、新聞に、2019年の一年間に、我が国で生まれた赤ちゃんは、86万人台になったと言う報道があった。昭和30年位には、全国で一年間270万人以上の赤ちゃんが誕生していたのに、30%近くまで、出産数が減少してしまっている。昨今、日本の人口が減少して、少子高齢化が進んでいることには、殆どの方が気付いていると思う。我が愛する高知県も、昨年、人口69万人台に迄落ち込んだ。80万人程の人口を誇った昔もあったが、見る影もない。それでも、県都の高知市は、人口30万人を保っている。高知市の近隣の、南国市は人口48000人、伊野町が人口22000名、土佐市の人



口 28000 名を合わせると、県人口 70 万人の中の、39 万人が高知市周辺で生活している事になる。つまり、今でも、県民の 56% は、高知市周辺での生活である。しかし、一昨年、高知県内で生まれた赤ちゃんは、僅か 4498 名であり、昭和 27 年頃の出産数は、約 24000 名以上であることから比べると、18% 程に迄減少している。反対に、死亡数は、10000 名以上だし、年間の転出転入者を差し引くと、毎年 8000 名近くの人口自然減少が続いている。今の高知県は、65 歳以上の高齢者が 29%、生産人口 59%、子供が 12% という現状である。平均寿命は男性 80 歳、女性 87 歳で、高齢者と一緒に暮らす方の半数が、高齢者との生活に幸せと感じているらしい。

一方、高齢者の一人暮らし、又は、高齢夫婦の世帯が 62% を占めている。県民の死亡原因は、人口 10 万人当たり、悪性新生物 172 名、心臓血管が 70 名、脳が 38 名である。これらの疾患に対応する病院数は、人口当たりで、全国平均の 2.5 倍で全国一、ベッド数も 2 倍で全国一だ。……にも拘らず、生活習慣病に起因する死亡者数は、やっと最近、全国平均に近づいたばかりである。このような高知県の現況を、よく理解して頂いて、地元で今から医療を生業として、生活して行く若い皆様には、県民の健康維持と安穏な生活を目指して頑張ってもらいたいと思う。先日、昨年の始めに、河合雅司の書いた「未来の地図帳」を読んで、もっと驚いた。彼は、厚生労働省、経済産業省、総務省の公表されている統計データをまとめて、一冊の本にしたのだ。この本によると、2045 年、今から 25 年後には、高知県民は僅か 49 万人に減少する。しかし、高知市周辺の高知市周辺の人口は減少しない。つまり、人口分布で言えば、高知市周辺に 39 万人、残りの僅か 10 万人余りが、四万十市や安芸市などの周辺地域で生活する事になる。町が人口 15 万人以下になると、映画館、大学、会計事務所、デパート、救急医療や先進医療が成り立たなくなると言われている。高知市では、今、マンションの新築が盛んに行なわれているが、完売だそう。誰が買うかと言うと、地方に住む高齢者が、いざと言う時に移り住む為らしい。子供達は故郷、高知へ帰りたいがらないし、一人暮らしになった時にコンビニやスーパー、病院、市役所や県庁に近い場所で、老後を過ごしたいと考えられている様だ。25 年後の高知の医療を、今から担われる皆さんには、是非共、良くお考えになってもらいたいなあと思っている。

## 特定医療法人仁生会 細木病院

副院長 上地 一平

当院では昨年 10 月に堀見忠司院長が勇退され、後任に三愛病院院長の深田順一先生が着任され、新しい体制になりました。昨年 5 月には理事長の息子さんの細木信吾先生が循環器内科部長として医療センターから帰ってこられ、今年の春にはハートセンターが完成する予定になっています。外科は相変わらず私と尾崎信三外科部長兼医局長の二人体制ですが、血管外科の西村哲也部長に何かとお手伝いを頂き、非常に助かっています。

2019 年の全麻・腰麻の手術件数は 88 件で、2018 年の 101 件と比べると減少しました。乳腺症例が 51 件から 40 件に減ったのが影響したようです。ちなみに胃癌症例は 1 件しかありませんでした。当院では現在 7 人の研修医を抱えており、若い外科医不足が問題になっている中、外科の面白さを教えてはいますが、外科医にはなかなか来ってくれないのが現状です。

私事ですが、子供たちも巣立ち、夫婦二人だけになり、熟年離婚を言い渡されないよう、妻が 10 数年前より所属しているソフトバレーサークルに入れてもらい、今年還暦になる老体に鞭を打ちながらなんとかコミュニケーションを保つようにしています。



昨年は日本臨床外科学会総会が花崎会長の下、盛況のうちに終了され、喜ばしいとともに、関係者の方々につきましては本当にお疲れ様でした。今年も微力ながら何かのお役に立てるよう、頑張りたいと思います。

## 高知生協病院

外科 川村 貴範

昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。

昨年は仕事も私生活でも比較的落ち着いた1年だったようにも思います。しかし、今年は個人的には子供達の就職の年になるので今から何となく気になって不意に気持ちが落ち着かなくなったりします。

さて、ここ数年、龍馬マラソンに出ています。今年で5回目になります。3回目までは順調に記録も伸びていたのですが昨年は35km以降で大失速してワースト2の記録でした。最近は流行りの厚底シューズのように昔と違って色々なランニングシューズが売られていてどれをチョイスしたらいいのか本当に悩んでしまいます。昨年はその流行りの厚底シューズを勢いで買ってそれで龍馬マラソンを走りました。しかし、あれを履いたら速く走れると言うのは若い体力のあるランナーが対象なのは？とあとで思うようになりました。確かに10kmくらいならタイムは良いけど自分には脚への負荷が強すぎるような気がします。ですから今年はまた違ったランニングシューズで挑みたいと思っています。それから、昨年の失敗から昨年秋頃より体重を何とかもう数kg落としたいと思うようになりました。生活を振り返り、日頃のビールをやめて、週末のみ飲むようにしました。これまで結構飲んできたのでそろそろ減酒しても良いのかなと思ったりしていたこともありました。すると、あっという間に数kg減り大学を卒業した頃の体重になりましたし、何となく体調も良いような気がします。やはりお酒の飲み過ぎはいけません。それでも時々、なんでこんなにしんどい思いをしてフルマラソンに挑むのか、やめようか、と思うこともありました。しかし、本番が近づいてくると、やはり、頑張ろう！と思ってしまう。食生活に気を付けて日頃から運動をすると言うことはやはり健康に良いことなので、続けていく価値は十分にあるでしょう。無理の無いよう頑張りたいと思います。また高知県民が龍馬マラソンをきっかけに少しでも健康に過ごせるようになれば良いと思います。

今年もまた新たな1年が始まりましたが、変わらずよろしくお願い致します。

## 高知県立 幡多けんみん病院

診療部長 秋森 豊一

### (診療のまとめ)

2019年当初は上岡、秋森、桑原、徳丸、川西、藤枝の6人大体制で診療しておりました。4月に上岡先生の退職、徳丸哲平、藤枝悠希の転勤がありましたが、大学から石田信子先生に参加いただき、現在4人体制でこれまでの外科症例をこなしています。川西、石田には昼夜を問わず診療に携わってもらい、多忙な日々ではありますが、数多くの症例を経験してもらっています。

応援医師は昨年同様に乳腺外来・手術を高知大学から沖豊和 Dr、細木病院から尾崎信三 Drを毎週水曜日に、手術応援として高知医療センターの消化器外科 Drにもお手伝いいただき、診療を行いました。

手術症例は467例で桑原先生を中心に腹腔鏡手術を積極的に取り入れ、乳腺以外の手術の約7割を鏡視下手術で行うことで平均入院日数は2018年の15.8日から2019年は13.3日に短縮しました。

この1年で川西 Dr は 280 例の手術経験、内 145 例の執刀、石田 Dr は 260 例の手術経験、内 105 例の執刀してもらい、順調に外科手技の修練を積んでいます。また、外来延患者数は 8950 人（1 日あたり 37.3 人）、入院延患者は 9303 人（1 日あたり 25.5 人）でした。

診療は、手術療法を中心に、がん化学療法、緩和療法、救急治療を積極的に行い幡多地域での医療の完結を目指して日々努力しています。

#### （手術療法）

外科では消化管全般、肺、肝胆膵、肛門、ヘルニアなどを中心に手術を行っています。

2019 年、手術件数は、全身麻酔による手術 467 例（腹腔鏡手術 293 例）、内緊急手術は 128 例でした悪性疾患は 166 例（腹腔鏡手術 93 例）でその内訳は食道 7 例（鏡視下手術 5 例）、胃 28 例（腹腔鏡手術 19 例）、大腸 69 例：結腸 59 例（腹腔鏡手術 53 例）、直腸 10 例（腹腔鏡手術 9 例）、肝・胆・膵 21 例（腹腔鏡手術 4 例）、乳がん 37 例、その他 4 例でした。

良性疾患は 301 例で、胆嚢疾患 75 例（腹腔鏡手術 73 例）、ヘルニア（そけい、大腿、閉鎖孔、腹壁癒痕）65 例（腹腔鏡手術 43 例）、そのほかとして、消化管穿孔、腸閉塞、急性虫垂炎などでした。鏡視下手術は 293 例（乳腺を除いて 293/430:68%）と増加しました。桑原 Dr が中心となって消化管の良性悪性、肝胆膵疾患をはじめ、バイパス手術、審査腹腔鏡、緊急での消化管穿孔、虫垂炎、ヘルニア等も可能な限り鏡視下手術で行うようになりました。

#### （化学療法）

化学療法は術前、術後、補助化学療法と、切除不能の消化器癌に対する治療をガイドラインに沿って積極的に行っています。また、薬剤部、化学療法室 Ns、外来 Ns と情報共有し、患者さんのニーズにあわせて治療計画表に従って副作用の防止に努めながら実施しています。

1 年間の化学療法の内訳は新規導入化学療法 77 人、レジメン数では 258 でした。今後も、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤等、新しい治療薬についてもその効果と安全性を確認したうえで、積極的に取り入れていきたいと考えています。

#### （緩和医療）

幡多けんみん病院は高知県の西南端に位置し、高齢化、人口減少の問題を抱えています。二次医療圏における中核病院として平成 24 年 4 月 1 日より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。地域には緩和ケア病棟やホスピスはなく緩和ケアに関しても当院が中心となって周辺医療機関との連携で患者さん・家族の要望を満たす必要があります。2019 年は新入院患者数 619 名、新入院がん患者数 312 名、実入院がん患者数 227 名、看取りを行ったがん患者数 27 人でした。緩和ケアに関しては、まだまだ満足のいくものではありませんが、疼痛コントロール、精神的なケアなど、病棟スタッフや緩和ケアチーム、退院調整部門、地域連携チームの助けを借り、地域の病院や訪問看護ステーションと連携をとりながら、患者さんやその家族の方々が身体的、精神的に落ち着いた時間を過ごしていただけるように努力しています。

#### （カンファレンス）

外科スタッフ全員が入院患者の主治医として毎朝カンファレンスを行い、患者さんの状態の把握、治療方針の検討を行っています。毎週水曜日には消化器科、病理と手術症例の検討を行い、診断・治療法・症例の振り返りを行い、また手術ビデオの見直しを行うことで日々研鑽を積んでいます。金曜日は Dr、Ns、薬剤師、リハビリ、栄養科、ソーシャルワーカーと合同で入院患者さんの治療方針、退院後の計画についてカンファレンスを行い他職種の意見を取り入れて、入院中、退院後のより良い医療を提供できるよう努めました。

## イベント・Happy News

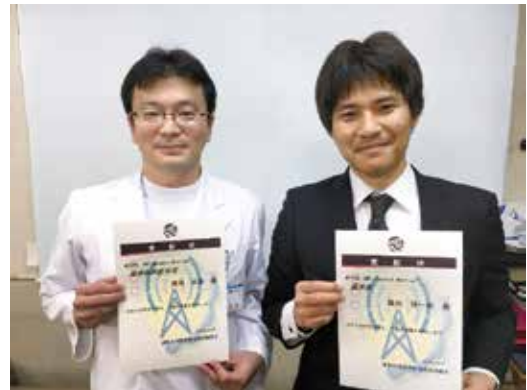
2019年イベントスケジュール

- 1月●沖 豊和先生 日本乳癌学会認定医・乳腺専門医 取得
- 1月●福留 惟行先生 日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 取得
- 1月●岩部 純先生 日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 取得
- 1月●上村 直先生 日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本腹部救急医学会認定医 取得
- 1月●藤澤 和音先生 日本外科学会専門医 取得
- 1月●横田 啓一郎先生 日本外科学会専門医 取得
- 1月●宗景 匡哉先生 膵臓学会認定指導医 取得
- 2月●横田 啓一郎先生 第18回KMS Research Meeting 優秀賞 受賞
- 2月●前田 広道先生 第18回KMS Research Meeting 特別賞 受賞
- 3月●並川 努先生 高知大学医学部附属病院 優秀研究者賞 受賞
- 3月●前田 広道先生 高知大学医学部附属病院 優秀研究者賞 受賞
- 4月●岡田 衣世先生・富田 優香先生・前田 将宏先生が入局
- 4月●宗景 匡哉先生 日本肝臓学会専門医 取得
- 4月●花崎 和弘先生 高知医療再生機構 平成31年度専門医養成支援事業 採択
- 4月●北川 博之先生 高知医療再生機構 平成31年度指導医資格取得支援事業 採択
- 4月●前田 広道先生 高知医療再生機構 平成31年度指導医資格取得支援事業 採択
- 5月●第26回特別講演会・楷風会総会・懇親会 開催
- 6月●統合医学総論特別講義 開催
- 7月●花崎 和弘先生 外科侵襲とサイトカイン研究会 代表世話人 着任
- 9月●花崎 和弘先生 日本外科代謝栄養学会 教育指導医 取得
- 10月●大島 雅之先生 (当番会長)  
PS-PIC 2019 OSAKA 第24回日本小児外科漢方研究会 開催
- 11月●花崎 和弘先生 日本人工臓器学会新理事長 選出
- 11月●花崎 和弘先生 外科周術期感染管理 認定医 教育医 取得
- 11月●小林 道也先生 (当番会長) 第112回日本消化器病学会四国支部例会 開催  
並川 努先生 (当番会長) 第123回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 開催
- 11月●前田 将宏先生 第112回消化器病四国支部例会 研修医奨励賞 受賞
- 11月●花崎 和弘先生 (総会会長) 第81回日本臨床外科学会総会(高知) 開催
- 12月●周術期栄養療法セミナー 開催
- 12月●花崎 和弘先生 日本消化器病学会 指導医 取得 (同 教育施設認定)
- 12月●宗景 匡哉先生 ICD 認定 (ICD 制度協議会)
- 12月●北川 博之先生 日本外科学会指導医と、日本消化器病学会専門医 取得

2月

## 第 18 回 KMS Research Meeting

2月6日・7日に高知県内の大学・研究機関で行われている医学・医療にかかわる研究発表「第18回 KMS Research Meeting」が開催され、前田広道先生と横田啓一郎先生が受賞者に選ばれました。教室にとっても大変喜ばしいニュースとなりました。前田先生・横田先生、このたびの受賞本当におめでとうございます！



4月

## 新入局員

岡田衣世（おかだ いよ）先生・富田優香（とみた ゆか）先生・前田将宏（まえだ まさひろ）先生が入局しました。

5月

## 第 26 回特別講演会・楷風会総会・懇親会

### ● 特別講演会

福山市民病院 副院長 貞森 裕先生、東邦大学大学院消化器外科学講座 教授 島田英昭先生を講師にお招きしご講演いただきました。



福山市民病院 副院長  
貞森 裕 先生



東邦大学大学院  
消化器外科学講座 教授  
島田 英昭 先生

第26回 特別講演会・楷風会総会・懇親会

日時：2019年5月25日（土）午後4:00  
会場：ザクラウンパレス新阪急高知  
高知市本町4-2-50 TEL：089-873-1111

特別講演会 午後4:00 - 4:40  
「消化器外科治療境界の克服-安全性確保と適応拡大」  
福山市民病院 副院長 貞森 裕 先生

特別講演会 午後4:50 - 5:30  
「食道癌・胃癌バイオマーカーの臨床応用  
～診断・治療での使い方～」  
東邦大学大学院消化器外科学講座  
教授 島田 英昭 先生

総会 午後 5:40 - 6:00  
写真撮影 午後 6:00 - 6:30  
懇親会（参加費15,000円） 午後 6:30



● 楷風会総会



● 懇親会





6月

## 統合医学総論：夢を追う肝臓外科医達



6月19日に東京医科歯科大学肝胆膵外科 教授 田邊 稔先生を講師にお招きし6年生を対象にご講演を賜りました。



花崎和弘先生 田邊稔先生

### 学生からの声

「自分から行動することが医師になってからも大切であることを学びました」

「外科系医師になりたいと思っています。とても刺激的な内容でした」

「医学の歴史、事件などとても興味深いお話でした」

「私は外科を目指していませんが、外科の大切さがわかりました」

「進路を決めかねていましたが、外科がいかかもしれないと思いました」

などの声が多数聞かれました、外科医、医師になるモチベーションが上がる、とても刺激적인ご講義を賜りありがとうございました。

6月

## 統合医学総論：排便障害の基礎と臨床

—医師になったら必ず役立つ便秘と便失禁の基礎知識—



6月21日に自治医科大学医学部外科学講座 消化器外科学部門 教授 味村俊樹先生を講師にお招きし6年生を対象にご講演を賜りました。



花崎和弘先生 味村俊樹先生 倉本秋先生

### 学生からの声

「日常の例を上げながら、正常と異常の違いなどの解説をいただきとてもよくわかりました」

「便秘の原因がたくさんあることが分かった」

「将来の臨床にとっても役に立つと感じた」

「下剤の処方だけではいけないと学んだ」

「排便障害に対する熱い思いを、講義を通じて感じる事ができた。医師になって使える知識がたくさんあった」

などの声がたくさんありました。ユーモアたっぷり、分かりやすく、面白い、役に立つ講義にとっても感激していました。ありがとうございました。



## 7月 国際交流：バーレーン医科大学

7月22日～8月15日にRCSIバーレーン医科大学よりMr. Nalin JaiswalとMs. Mariam Al-Sheikhが本学に短期留学され、光線医療センターの手術見学、外来見学、実習および花崎光線医療センター長と井上副センター長とのディスカッションを行いました。

高知大学とバーレーン王国のアイランド王立外科医学院バーレーン医科大学は平成25年に大学間の協定を結び、令和元年5月16日交換留学生および共同研究に関する調印を行いました。



Mr. Nalin JaiswalとMs. Mariam Al-Sheikhの歓迎会



歓迎会



修了式



送別会



NalinとMariamから  
サプライズプレゼントを頂きました(^^) /



9月

# XLVI ESAO Congress Hannover: 「Perioperative tight glycemic control using an artificial endocrine pancreas with closed loop system」

花崎和弘先生が XLVI ESAO Congress Hannover の Lunchtime Symposium で外科領域における人工膵臓に関する研究成果を発表しました。



10月

# PS-PIC 2019 OSAKA

大島雅之先生が10月17日～10月20日に第35回日本小児外科学会秋季シンポジウム、第27回小児集中治療ワークショップ PSJM (Pediatric Surgery Joint Meeting) 2019で第24回日本小児外科漢方研究会を当番会長として開催しました。

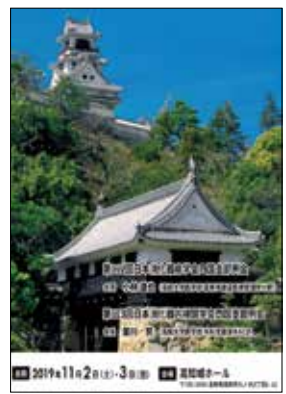






## 第 112 回日本消化器病学会四国支部例会 第 123 回日本消化器内視鏡学会四国部例

小林道也先生が11月2日3日に第112回日本消化器病学会四国支部例会の当番会長として、並川努先生が第123回日本消化器内視鏡学会四国部例の会当番会長として高知で合同開催いたしました。第112回消化器病四国支部例会で前田将宏先生が研修医奨励賞を受賞されました。今後の更なるご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 第 81 回日本臨床外科学会総会

花崎和弘先生が11月14日～16日に第81回日本臨床外科学会総会を総会会長として高知で開催しました。



### 謝 辞

2019年（令和元年）11月14日（木）から11月16日（土）の3日間にわたり第81回日本臨床外科学会総会を高知市にて開催させていただきました。

おかげさまで会期中は、3,397演題が発表され、5,000名を超える方々にご参加いただきました。令和元年という節目の年に、輝かしい伝統と歴史を有する本総会を高知で初めて開催しただけでなく、「秋晴れ」の晴天にも恵まれ、盛会のうちに終了できたことを大変嬉しく、誇りに思います。これも偏に跡見裕学会会長をはじめとする参加者および関係者の皆様のおかげです。誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

末筆になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げて、謝辞とさせていただきます。このたびは本当にありがとうございました。

来年大阪（第82回総会会長：内山和久教授）でお会いするのを楽しみにしています。

2019年（令和元年）11月16日  
第81回日本臨床外科学会 総会会長 花崎和弘



## 12月 周術期栄養療法セミナー

12月13日に周術期栄養療法セミナーを開催し、千葉県がんセンター 食道・胃腸外科部長／NSTチェアマン 鍋谷圭宏先生にご講演を賜りました。

先生のお話は大変分かりやすい内容で、食べたい気持ちにこたえるためにアイデアや工夫をたくさんされており、いかに食事が健康な人はもちろんのこと手術後の患者様にも大切かということが改めて分かりました。当院にとって大変貴重なお時間をいただきました。鍋谷先生、高知までお越しいただき本当にありがとうございました。



高知大学  
周術期栄養療法セミナー

2019年12月13日(金) 18:00~19:00  
実習棟3階第2講義室

特別講演会  
「食べたい」に応えるために：がん患者のトータルケアを目指して」

千葉県がんセンター  
食道・胃腸外科部長 / NSTチェアマン  
**鍋谷 圭宏** 先生

対象：附属病院の全職員  
(感染管理研修会のシール (IC) を配布します)  
※セミナー開始後10分で受付終了となります。

お問い合わせ 外科学講座外科1  
TEL: 088-850-2170  
E-mail: im31@kochi-u.ac.jp  
共催：感染管理部

## 12月 周術期栄養療法セミナー

12月20日に周術期栄養療法セミナーを開催し、東海大学医学部 消化器外科 教授 中郡聡夫先生にご講演を賜りました。臨床外科終了からのごくわずかな期間で、新たな栄養指標を用いた解析を行い、その結果を公開いただきました。その研究スピードのはやさにとても驚きました。様々な因子を含めた詳細な予後解析は学問的

価値が非常に高く、大変勉強になりました。そして、美しいアニメーションを用いた手術の解説はとも感激しました。患者さんへの説明にも使用することができればと医局員一同感じました。



高知大学  
周術期栄養療法セミナー

特別講演  
「辟瘻手術における栄養指標」

東海大学医学部 消化器外科  
教授 **中郡 聡夫** 先生

2019年12月20日(金)18:00~19:00  
実習棟3階 第2講義室

対象：附属病院の全職員  
(感染管理研修会のシール (IC) を配布します)  
※セミナー開始後10分で受付終了となります。

お問い合わせ 外科学講座外科1 共催：感染管理部  
TEL: 088-850-2170 (FAX) 22731

## 第 14 回楷風会賞 受賞者

### 第 14 回楷風会賞を受賞して

前田 広道

2019 年楷風会賞を賜り大変ありがとうございます。2019 年は 3 編の原著論文、5 編の症例報告に深く（筆頭または corresponding）関わらせていただきました。成果は他人と比べるのではなく、過去の自分と勝負するのがいいのだ（第 81 回臨床外科シンポジウム 6）という教えを胸に、無理をしすぎず、本当にいいと思うものを生み出していく努力を重ねたいと思います。

2019 年は大学内外での共同研究に広がりがありました。特筆すべきは National Clinical Database を用いた研究が採択されました。花崎先生にご指導をいただき、上村 直先生とともに作成した申請書は厳しい審査を経て採択となりました。数十万件に及ぶ手術データを解析する機会と巡り合い、統計解析の先生方との会議が進行中です。臨床外科の準備で最も忙しい時期に、花崎先生や共同研究の先生に何度もご指導をいただき、本当にありがとうございました。いままで経験したことのない巨大なデータで、期待が大きいだけに不安もありますが、最後までやり切りたいと思います。

### 第 14 回楷風会賞受賞者選考に当たって

花崎 和弘

該当年度に一番 activity の高い学術的活動を行った楷風会員に贈られる楷風会賞の 14 回目の受賞者は、前田広道先生（特任講師）を選考させていただきました。

選考の理由を述べさせていただきます。前田広道先生は対象となる 2019 年 1 月より 12 月までの 1 年間に、多忙な臨床・研究・教育の毎日にも関わらず、2 編の筆頭著者英語論文と 5 編の英語症例報告論文を corresponding author として publish しました。海外留学期間も含めて長年にわたり地道に研究を行うだけでなく、後輩への論文作成指導も含めて英語論文作成も行ってきています。これまでの総合インパクトファクター数は 160 を超えています。40 歳ですので立派な業績といえます。

特筆すべきは NCD データを用いた研究解析において、前田広道先生がアイデアを出し、日本肝胆膵外科学会から推薦された研究課題であります「消化器外科領域の手術施行日（曜日・季節）と手術成績の関係」が日本消化器外科学会の審査を経て 2019 年度消化器外科領域新規研究課題に採択されたことです。

以上の優れた学術的活動に対し、第 14 回楷風会賞を前田広道先生に授与します。

コミュニケーション能力に優れ、謙虚なお人柄で教室員からの信頼も厚い先生です。これからも若手教室員の良きお手本となって教室を牽引していただきたく存じます。



## 第14回 Impact Factor 賞 受賞者

### Impact Factor 賞と医局長退任について

北川 博之

青天の霹靂とはこのことでしょうか？何故か私が受賞してしまいました。事の発端は第2内科の田口先生からの1本の電話です。魚骨の消化管穿通についてご質問いただいたので、私の知る限りを一般論としてお話ししました。結果はなんとNEJMに掲載されました。私は筆頭著者ではないので、この賞をいただくのはなんとも言えないものがありますが、5年間医局長を務めさせていただいたご褒美も兼ねて、ありがたく頂戴いたします。

5年前に医局長を拝命した時は、教室員の減少で非常に苦しい時代でしたが、並川先生、宗景先生と胃・食道・肝胆膵の上半身グループを形成して何とかしのいでいました。外来診療前に透視検査も行い、リザーバー留置も行い、本当に目が回る思いでしたが、肝胆膵の手術を手伝わせてもらったことは貴重な経験です。とにかく人を増やさなければ……ということで、「医局員10名増加」を大目標、「一人前の外科医の育成」を中目標、そして「教室員の福利厚生」を小目標としました。

当時学生担当でもあり、ジェネレーションギャップを埋めるコミュニケーションを期待して取り組んだマンツーマン教育を導入し、教室主催の研究会のメール案内などなりふり構わぬ勧誘を行いました。また女性医局員の増加と労働基準局の存在感が増す中で、当直回数を軽減しました。初期の作戦が功を奏してか、藤澤、川西、谷岡、津田、藤枝、山口、横田、宇都宮、石田、岡田、小松、前田（敬称略）と、都合12人の若手を増やすことができました。そして新専門医制度の導入にあたり、高知医療センター、高知赤十字病院、近森病院の協力を得て、高知県全体で1つのプログラムである「高知家外科専門医育成プログラム」を形成することができました。彼らを積極的に関連施設に派遣することで専門医取得に必要な手術経験数を確保するとともに、多くの施設の外科医が顔見知りになることができます。高知県の外科医療は高知大学が支えるという気概です。ご賛同いただいた関連病院の先生方に感謝申し上げます。

私自身も一人前の指導医となるためにも論文作成や資格取得を積極的に取り組みました。まだ目標は道半ばですが、4月に医局長を前田広道先生に交代します。役割は変わりますが、引き続き彼らの育成と教室の運営に尽力させていただきます。至らぬ点が多々ありましたが、このような機会をいただいた花崎教授並びに、活動にご協力いただいた教室、関連病院の皆様には紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 第14回 Impact Factor 賞受賞者選考に当たって

花崎 和弘

該当年度に最もImpact Factor (IF) の高い雑誌に論文掲載が認められた楷風会員に贈られるIF賞の14回目の受賞者は、北川博之先生（学内講師・病院准教授）となりました。北川先生は初めてのIF賞の受賞となります。誠にありがとうございます。

選考の理由ですが、選考対象となる2019年1月より12月までに掲載または受理された論文の中から、北川先生の論文（New England Journal of Medicine : NEJM）が2018年journal citation reportより一番高いIF値を有していたためです。

本論文は2人のauthorより構成されており、2内科の田口先生が筆頭著者で北川先生はセカンドオーサーです。タイトルは「Fish Bone Perforation」で当科で施行した緊急手術のイメージングに関するbrief reportです。実際の手術に携わったのは宗景匡哉先生ですが、本論文作成に当たり田口先生のご相談に乗った北川先生が「棚からぼた餅」みたいな感じで共著者になってしまいました。今やIF値が70以上のNEJM掲載論文の共著者ですので、まさにラッキー以外の何物でもありません。

北川先生、今後とも精進を重ね、次回は是非とも自力でImpact Factor 賞を受賞してください。



## 学外研修報告

### 高知赤十字病院

宇都宮 正人

高知赤十字病院での勤務も2年が経とうとしています。少しずつ執刀させていただく機会が増え、同時に自分の未熟さを痛感する毎日です。この度外科専門医の筆記試験に合格することができましたので、症例を重ねつつ精進したいと思っています。

### 兵庫県立こども病院

小児外科 藤枝 悠希

2019年4月より兵庫県立こども病院で研修を始めさせて頂きました。手術症例は簡単な検査も含めると年間1000例以上あるハイボリュームセンターです。今まで出会ったことのない疾患や慣れない環境に右往左往する毎日ですが、可愛いちびっこ達に癒されながら日々の診療に取り組んでいます。こども病院には色々な場所から近い年代の小児外科医も集まっており、仕事のモチベーションに繋がっています。仲間を得るといっても国内留学は大変有難い機会だなあと実感しています。



昨年は、外科専門医を取得することができました。今後は本格的に小児外科専門医取得を目指して頑張ります。しっかり研鑽を積んで高知に帰って役に立ちたいと思っていますので、戻った際には何卒よろしくお願いたします。



## 医局事務だより

### 外科1事務だより

2019年も皆様にご大変お世話になりありがとうございました。外科1事務は川村（麻）、菅野さん、梶原さん、富本さんで担当しました。乳腺センターは辻岡さんが引き続きご担当くださいました。そして、NCDの登録は川村（香）さんが担当してくれました。正確で遅滞ない入力に、医局の先生方からとても信頼されています。ありがとうございます。Happy newsとして、梶原さんにお子さんが誕生しました。また、途中からは富本さんが新しく仲間に加わり、複雑な医局のお仕事を覚えていてくれています。

2019年医局にとってのニュースはやはり、11月の臨床外科学会総会 in 高知です。演題数も多く、参加された先生方から高知での学会が充実して実りあるものであったとのこと、花崎先生宛にたくさんのお手紙が届きました。大変なプレッシャーの中で一生懸命準備してきたことが報われたと思い、安堵とともに事務一同、喜んでいきます。

医学の世界はもっとそうかもしれませんが、事務の世界も日々変化があります。例年のことと思っただけだと対応していると、急に事務処理の仕方が変わったり、煩雑になったり。そういった変化に対応していきながら、診療や研究、医学教育など先生方が働きやすい環境が整備できればと願っています。



## 手術件数

### ● 手術件数調査票 (2019年1月～12月)

高 知 大 学		
手 術		
		鏡視下手術
甲状腺	34	
乳腺	132	
肺、縦隔		
食道	31	23
胃、十二指腸	72	25
肝臓	46	3
胆道	57	48
膵臓	13	3
脾臓	1	
虫垂	8	7
ヘルニア	54	21
イレウス	12	
小腸	15	4
大腸	104	81
肛門	4	2
小児	81	22
その他	58	12
合 計	722	251

● 手術件数調査票 (2019年1月～12月)

病院名	上部消化管	下部消化管	肝胆膵	虫垂	ヘルニア	小児外科	乳腺	甲状腺	血管外科	その他	合計
あき総合病院	15	72	25	11	39	0	16	2	0	272	452
愛宕病院	15	16	34	9	17	0	1	0	3	40	135
いずみの病院	9	7	1	0	14	0	12	1	0	10	54
渭南病院	11	11	19	0	9	0	0	0	1	1	52
くぼかわ病院	1	2	3	4	11	0	0	0	13	103	137
くろしお病院	10	4	3	4	9	0	0	0	0	23	53
高知生協病院	6	10	18	4	10	0	27	0	0	36	111
島津病院	0	0	0	0	0	0	0	0	255	17	272
竹下病院	2	6	0	0	4	0	0	0	40	139	191
田野病院	2	7	4	1	4	0	0	0	0	1	19
近森病院	47	213	158	42	45	0	4	2	0	20	531
千葉西総合病院	90	157	225	133	166	15	64	1	96	330	1277
仁淀病院	5	7	8	0	9	1	4	0	0	20	54
野市中央病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	158	159
幡多けんみん病院	98	103	96	30	65	6	37	0	0	38	473
細木病院	1	9	4	4	17	0	40	1	1	44	121



## 業績：論文発表（2019.1～2019.12）

### [ 英語論文 ]

#### 論文

	著者名	論文タイトル	雑誌名
1	Fujieda Y, Maeda H, Kawanishi Y, Tokumaru T, Kuwahara M, Akimori T, Kamioka N, Hanazaki K	A case of mesenteric phleboscrosis induced by long-term use of Kampo medicine	Annals of Cancer Research and Therapy 2019 27 : 12-14
2	Hanazaki K, Kitagawa H, Namikawa T	What Constitutes Ideal Perioperative Glycemic Control for Preventing Acute Postoperative Hyperglycemia in Surgical Patients with Nonalcoholic Fatty Liver Disease?	J Am Coll Surg 2019 228 : 210-211
3	Hayashi H, Tajima H, Hanazaki K, Takamura H, Gabata R, Okazaki M, Ohbatake Y, Nakanuma S, Makino I, Miyashita T, Ninomiya I, Fushida S, Yoshimura K, Ohta T	Safety of artificial pancreas in hepato-biliary-pancreatic surgery: A prospective study	Asian J Surg 2020 43 : 201-206
4	Iwabu J, Yamashita S, Takeshima H, Kishino T, Takahashi T, Oda I, Koyanagi K, Igaki H, Tachimori Y, Daiko H, Nakazato H, Nishiyama K, Lee YC, Hanazaki K, Ushijima T	FGF5 methylation is a sensitivity marker of esophageal squamous cell carcinoma to definitive chemoradiotherapy	Sci Rep 2019 9 : 13347
5	Iwabu J, Namikawa T, Kitagawa H, Kanagawa T, Nakashima J, Hanazaki K	Sigmoid colon perforation in the patient with granulomatosis with polyangiitis	Surg Case Rep 2019 5 : 87
6	Kanagawa T, Maeda H, Okamoto K, Fukudome I, Tsuda S, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K	Atypical presentation and prolongation of retroperitoneal abscess after emergency surgery for perforated ascending colon cancer in a patient receiving anti-interleukin-6 receptor monoclonal antibody therapy	Annals of Cancer Research and Therapy 2019 27 : 42-45

著者名	論文タイトル	雑誌名
7 Kanehira K, Yano Y, Hasumi H, Fukuhara H, Inoue K, Hanazaki K, Yao M	Fluorescence Enhancement Effect of TiO <sub>2</sub> Nanoparticles and Application for Photodynamic Diagnosis	Int J Mol Sci 2019 20 : pii : E3698
8 Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Uemura S, Munekage M, Tsuda S, Yokota K, Kobayashi M, Hanazaki K	Scheduled Intravenous Acetaminophen for Postoperative Management of Patients Who Had Thoracoscopic Esophagectomy for Esophageal Cancer	Anticancer Res 2019 39 : 467-470
9 Kitagawa H, Iwabu J, Yokota K, Namikawa T, Hanazaki K	Intraoperative Neurological Monitoring During Neck Dissection for Esophageal Cancer With Aberrant Subclavian Artery	Anticancer Res 2019 39 : 3203-3205
10 Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Uemura S, Munekage M, Yokota K, Kobayashi M, Hanazaki K	Bowel obstruction associated with a feeding jejunostomy and its association to weight loss after thoracoscopic esophagectomy.	BMC Gastroenterol 2019 19 : 104
11 Kitagawa H, Ohbuchi K, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Namikawa T, Kushida H, Matsumoto T, Shimobori C, Nishi A, Sadakane C, Watanabe J, Yamamoto M, Hanazaki K	Phenotyping analysis of the Japanese Kampo medicine maoto in healthy human subjects using wide-targeted plasma metabolomics	J Pharm Biomed Anal 2019 164 : 119-127
12 Kumamoto K, Nakachi Y, Mizuno Y, Yokoyama M, Ishibashi K, Kosugi C, Koda K, Kobayashi M, Tanakaya K, Matsunami T, Eguchi H, Okazaki Y, Ishida H.	Expressions of 10 genes as candidate predictors of recurrence in stage III colon cancer patients receiving adjuvant oxaliplatin-based chemotherapy	Oncol Lett 2019 18 : 1388-1394
13 Maeda H, Nagata N, Nagasaka T, Oba K, Mishima H, Kato T, Yoshida K, Muro K, Sakamoto J	A multicenter single-arm Phase II clinical trial of second-line FOLFIRI plus panitumumab after first-line treatment with FOLFOX plus panitumumab for initial RAS wild-type colorectal cancer with evaluation of circulating tumor DNA: A protocol study	Oncol Lett 2019 17 : 1980-1985

著者名	論文タイトル	雑誌名
14 Maeda H, Hazama S, Iwamoto S, Oba K, Tsunedomi R, Okayama N, Suehiro Y, Yamasaki T, Nakagami Y, Suzuki N, Nagano H, Sakamoto J, Mishima H, Nagata N	Association between polymorphisms in EGFR and tumor response during cetuximab and oxaliplatin-based combination therapy in metastatic colorectal cancer: Analysis of data from two clinical trials	Oncol Lett 2019 18 : 4555-4562
15 Mayanagi S, Kashiwabara K, Honda M, Oba K, Aoyama T, Kanda M, Maeda H, Hamada C, Sadahiro S, Sakamoto J, Maehara Y, Yoshikawa T	Risk factors for paraaortic lymph-node recurrence in colorectal cancer	Annals of Cancer Research and Therapy 2019 27 : 52-56
16 Nagata N, Maeda H, Ishibashi K, Hirata K, Makiyama A, Iwamoto S, Takemoto H, Imasato M, Yoshida Y, Munemoto Y, Tanaka C, Morita Y, Hotta Y, Toyofuku A, Nagasaka T, Morita S, Sakamoto J, Mishima H	Multicenter open-label randomized phase II study of second-line panitumumab and irinotecan with or without fluoropyrimidines in patients with KRAS wild-type metastatic colorectal cancer (PACIFIC study)	Med Oncol 2019 36 : 46
17 Nakayama T, Kobayashi T, Shimpei O, Fukuhara H, Namikawa T, Inoue K, Hanazaki K, Takahashi K, Nakajima M, Tanaka T, Ogura SI	Photoirradiation after aminolevulinic acid treatment suppresses cancer cell proliferation through the HO-1/p21 pathway	Photodiagnosis Photodyn Ther 2019 28 : 10-17
18 Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Tamura T, Yatabe T, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K	Prognostic significance of serum alkaline phosphatase and lactate dehydrogenase levels in patients with unresectable advanced gastric cancer	Gastric Cancer 2019 22 : 684-691
19 Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K	Glomus tumor of the stomach treated by laparoscopic distal gastrectomy: A case report	Mol Clin Oncol 2019 10 : 583-586
20 Namikawa T, Ishida N, Yokota K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K	Early gastric cancer with multiple submucosal heterotopic gastric gland: A case report	Mol Clin Oncol 2019 10 : 583-586



著者名	論文タイトル	雑誌名
21 Namikawa T, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Nakayama T, Inoue K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K	Evolution of photodynamic medicine based on fluorescence image-guided diagnosis using indocyanine green and 5-aminolevulinic acid	Surg Today 2019 Jul 25 doi : 10.1007/s00595-019-01851-4 [Epub ahead of print] Review
22 Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Iguchi M, Murakami I, Kobayashi M, Hanazaki K	Intrahepatic bile duct adenoma in a patient with gastric cancer	Int Cancer Conf J 2018 8 : 7-11
23 Oki T, Sugimoto T, Ogawa M, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K	Evaluation of Follow-up Examinations Using Ultrasonography for Patients With Thyroid Nodules Initially Diagnosed as Benign	Anticancer Res 2019 39 : 2061-2067
24 Suzuki N, Hazama S, Nagasaka T, Tanioka H, Iwamoto Y, Negoro Y, Yamauchi M, Kobayashi M, Okuda H, Fujishima N, Nishimura T, Yamanaka N, Toyota K, Mori Y, Nakagami Y, Shimokawa M, Nagano H, Okajima M	Multicenter phase II study of biweekly CAPIRI plus bevacizumab as second-line therapy in patients with metastatic colorectal cancer (JSWOG-C3 study)	Int J Clin Oncol 2019 24 : 1223-1230
25 Taguchi T, Kitagawa H	Fish Bone Perforation	N Engl J Med 2019 381 : 762
26 Tamura T, Yatabe T, Namikawa T, Hanazaki K, Yokoyama M	Glucose control using a closed-loop device decreases inflammation after cardiovascular surgery without increasing hypoglycemia risk	J Artif Organs 2019 22 : 154-159
27 Tanioka N, Okabayashi T, Sui K, Matsumoto T, Iwata J, Morita S, Shimada Y	Clinicopathologic Features and Surgical Outcomes of Neuroendocrine Carcinoma of the Gallbladder	Surg Technol Int 2019 34 : 101-106
28 Uemura J, Okano K, Oshima M, Suto H, Ando Y, Kumamoto K, Kadota K, Ichihara S, Kokudo Y, Maeba T, Nanno Y, Toyama H, Takada Y, Shimada M, Hanazaki K, Masaki T, Suzuki Y	Immunohistochemically Detected Expression of ATRX, TSC2, and PTEN Predicts Clinical Outcomes in Patients With Grade 1 and 2 Pancreatic Neuroendocrine Tumors. Ann Surg	Ann Surg 2019 Oct 9 doi : 10.1097/SLA.0000000000003624 [Epub ahead of print]

著者名	論文タイトル	雑誌名
29 Uemura S, Maeda H, Tsujii S, Tsuboi K, Yagi K, Kitamura T, Okawa Y, Sakaeda H, Enzan H, Hanazaki K	Anaplastic pancreatic carcinoma growing within the main pancreatic duct complicated by a large pseudocyst	Annals of Cancer Research and Therapy 2019 27 : 95-100
30 Yamamoto M, Ninomiya H, Tashiro M, Sato T, Handa T, Inoue K, Orihashi K, Hanazaki K	Evaluation of graft anastomosis using time-intensity curves and quantitative near-infrared fluorescence angiography during peripheral arterial bypass grafting	J Artif Organs 2019 22 : 160-168
31 Yamamoto M, Ninomiya H, Miyashita K, Tashiro M, Orihashi K, Inoue K, Sato T, Hanazaki K	Influence of residual coronary flow on bypass graft flow for graft assessment using near-infrared fluorescence angiography	Surg Today 2020 50 : 76-83
32 Yamamoto M, Isomura T, Orihashi K, Miyashita K, Kitaoka H, Hanazaki K, Yamasaki N	Myocardial infarction-related left ventricular rupture with the tear across the ventricular wall detected on echocardiography	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 68 : 67-69
33 Yoshimatsu K, Ishibashi K, Koda K, Yokomizo H, Oda N, Oshiro M, Kato H, Oya M, Nakajima H, Ooki S, Maekawa H, Matsunami T, Tsubaki M, Yamada T, Kobayashi M, Tanakaya K, Yokoyama M, Ishida H	A Japanese multicenter phase II study of adjuvant chemotherapy with mFOLFOX6/CAPOX for stage III colon cancer treatment after D2/D3 lymphadenectomy	Surg Today 2019 49 : 498-506

## [ 日本語論文 ]

### 論文

著者名	論文タイトル	雑誌名
1 花崎和弘、藤澤和音、宗景匡哉、上村直、津田祥、北川博之、並川努	膝全摘術後の膝性糖尿病に対する人工膝臓療法	胆と膝 2019 40 : 81-85
2 花崎和弘	人工膝臓による血糖管理:外科の立場から----外科周術期の人工膝臓療法の現状と将来展望	医学のあゆみ 2019 268 : 576-580
3 大畠雅之、藤枝悠希、坂本浩一、花崎和弘	術前に後腹膜腫瘤と診断された胃重複症の1例	日本臨床外科学会雑誌 2019 80 : 310-314
4 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	BRCA1/2遺伝学的検査によって乳房温存療法の適応を決定した若年性乳癌の1例	癌と化学療法 2019 46 : 555-557
5 岩部純、北川博之、石田信子、横田啓一郎、並川努、花崎和弘	左胸腔鏡下に食道癌術後の胸部大動脈周囲再発病変を切除した2例	手術 2019 73 : 357-361
6 大畠雅之	膝頭部病変に対する局所切除	小児外科 2019 51 : 594-597
7 花崎和弘	医療機器の臨床研究:人工膝臓の臨床応用	日本外科学会雑誌 2019 120 : 472-473
8 花崎和弘	医療機器の臨床研究:人工膝臓の臨床応用	日本臨床外科学会雑誌 2019 80 : 1434-1435
9 岩部純、花崎和弘	消化器手術後に共通の症状	消化器ナーシング 2019 24 : 886-901
10 並川努、石田信子、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、宗景匡哉、上村直、前田広道、辻井茂宏、北川博之、小林道也、花崎和弘	栄養評価指数からみた胃癌化学療法患者における予後予測因子の検討	外科と代謝・栄養 2019 53 : 243-250
11 福留惟行、駄場中研、津田祥、岡本健、小林道也、花崎和弘	長径47cmの大網原発類上皮型消化管外GISTの1例	日本臨床外科学会雑誌 2019 80 : 1892-1896
12 杉本健樹	遺伝性乳癌-遺伝性疾患としての意義とコンパニオン診断としての意義を考える-	日本臨床外科学会雑誌 2019 80 : 1269-1278



著者名	論文タイトル	雑誌名
13 上村直、並川努、北川博之、藤澤和音、前田広道、小林道也、佐藤隆幸、花崎和弘	HyperEye Medical Systemを用いて虚血腸管を切除したNon-occlusive mesenteric ischemiaの1例	高知県医師会医学雑誌 2019 24 : 264-268
14 谷岡信寿、岡林雄大、住吉辰朗、須井健太、尾崎和秀、澁谷祐一	積極的な集学的治療を行い良好な経過をたどった切除不能膵神経内分泌腫瘍の3例	高知県医師会医学雑誌 2019 24 : 255-263
15 田浦康明、篠原彰太、鏡尾智幸、吉田拓哉、山根裕介、小坂太一郎、高槻光寿1、江口晋、大畠雅之、福田大輔、永安武	当院における小児Helicobacter pylori感染症例の検討	長崎医学会雑誌 2019 93 : 385-390
16 宗景匡哉、花崎和弘	人工膵臓	救急・集中治療 2019 31 : 1090-1092
17 並川 努、石田信子、横田啓一郎、岩部 純、上村 直、前田広道、北川博之、長田裕典、公文正光、小林道也、花崎和弘	根治手術13年後の再発胃癌に対して集学的治療を行った1例	癌と化学療法 2019 6 : 2087-2089
18 北川博之、花崎和弘	高知大学外科の教育方針 ダイバーシティ時代のacademic surgeon育成	外科 2019 81 : 872-875

## 業績：学会発表（2019.1～2019.12）

### 2019(海外)

著者名	演題タイトル	学会名
1 Hanazaki K.	Perioperative tight glycemic control using an artificial endocrine pancreas with closed loop system	XLVI ESAO Congress Hannover 2019.09 (Lunchtime Symposium)
2 Yokota K, Serada S, Tsujii S, Hiramatsu K, Namikawa T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T	Antibody-drug conjugate targeting glypican-1 shows tumor growth inhibition in cholangiocarcinoma	American Association for Cancer Research Annual Meeting 2019 2019.03
3 Obatake M, Hanazaki K, Hoshino E	Proof Field Study for Early Detection of Biliary Atresia and Liver Bile Congestion Diseases Using New Stool Color Discrimination System	Pacific association of pediatric surgeons 2019 2019.03
4 Obatake M, Nanazaki K, Hoshino E	Feasibility of biliary atresia screening using new AI technology-applied stool color discrimination system	European association of pediatric surgeons 2019 2019.06
5 Nagasaka T, Inada R, Ojima H, Noura S, Tanioka H, Munemoto Y, Shimada Y, Ishibashi K, Shindo Y, Kagawa Y, Tomibayashi A, Okamoto K, Tsuji A, Tsuji Y, Yamaguchi S, Sawaki A, Mishima H, Shimokawa M, Okajima M, Yamaguchi Y	Randomized phase III study of sequential treatment with capecitabine or 5-fluorouracil (FP) plus bevacizumab (BEV) followed by the addition with oxaliplatin (OX) versus initial combination with OX+FP+ BEV in the first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer: The C-cubed study	44th ESMO Congress (ESMO 2019) 2019, Barcelona, Spain 2019.09

### 2019(国内)

著者名	演題タイトル	学会名
1 花崎和弘	周術期の人工膵臓療法：究極の血糖管理法を目指して	第 93 回化学センサ研究会 2019.01（特別講演）
2 花崎和弘、北川博之、上村直、宗景匡哉、藤澤和音、並川努	術後感染性合併症対策としての栄養管理：血糖管理との両立を目指した人工膵臓療法	JSPEN2019 2019.02（合同シンポジウム）
3 Hanazaki K, Munekage M, Uemura S, Namikawa T	Educational training method to bring up academic surgeons including qualified HBP surgeons	第 31 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2019.06 (Educational Symposium)

著者名	演題タイトル	学会名
4 耕崎拓大、常風友梨、吉岡玲子、木岐淳、坪井麻記子、谷内恵介、津田祥、上村直、花崎和弘	超音波内視鏡手技の可能性を求めて（胆膵ドレナージ術以外）	第 111 回日本消化器病学会 四国支部例会 第 122 回日本消化器内視鏡学会 四国支部例会 合同 2019.06（合同シンポジウム）
5 高崎元樹、耕崎拓大、常風友梨、吉岡玲子、木岐淳、坪井麻記子、谷内恵介、津田祥、上村直、花崎和弘	多発肝転移を伴う巨大な膵神経内分泌腫瘍に対してストレプトゾシン、5-Fu、ランレオチドの多剤併用療法が有効であった 1 例	第 111 回日本消化器病学会 四国支部例会 第 122 回日本消化器内視鏡学会 四国支部例会 合同 2019.06
6 岡本健、前田広道、藤枝悠希、志賀舞、秋森豊一、小林道也、花崎和弘	大腸癌切除後の腸間膜内リンパ節検索における脂肪溶解法の有用性	第 74 回日本消化器外科学会総会 2019.07
7 岩部純、並川努、石田信子、横田啓一郎、北川博之、花崎和弘	抗血小板薬・抗凝固薬内服が胃手術に与える影響についての検討	第 119 回日本外科学会定期学術集会 2019.04
8 岩部純、北川博之、並川努、花崎和弘	von Willebrand 病を伴う胸部食道癌症例の周術期管理の経験、	第 73 回日本食道学会学術集会 2019.06
9 岩部純、並川努、北川博之、藤澤和音、沖豊和、小河真帆、矢野晶子、杉本健樹、花崎和弘	乳癌手術における深下腹壁穿通枝皮弁を用いた乳房再建後に腹壁破裂を来した 1 例	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11
10 岩部純	FGF5 methylation is a sensitivity marker of esophageal squamous cell carcinoma to definitive chemoradiotherapy	四国 4 大学合同研究発表会 2019.12
11 岩部純、北川博之、並川努、花崎和弘	大動脈食道瘻治療後に胸腔鏡下食道切除を行った一例	第 32 回日本内視鏡外科学会総会 2019.12
12 前田将宏、上村直、津田祥、横田啓一郎、谷岡信寿、藤沢和音、岩部純、宗景匡哉、前田広道、北川博之、岡本健、並川努、小林道也、花崎和弘	診断に難渋した横行結腸粘液癌肝転移の 1 例	第 112 回消化器病学会 四国支部例会 2019.11
13 前田将宏、上村直、津田祥、横田啓一郎、谷岡信寿、藤沢和音、岩部純、前田広道、北川博之、並川努、花崎和弘	ICG 排泄異常症を伴った巨大肝血管腫に対して肝左葉切除術を施行した 1 例	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11
14 並川努、石田信子、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、宗景匡哉、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	治癒切除不能進行再発胃癌に対する Nivolumab 療法における炎症および栄養指標の意義	第 91 回日本胃癌学会総会 2019.02-03



著者名	演題タイトル	学会名
15 並川努、石田信子、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、福留惟行、宗景絵里、岩部純、宗景匡哉、上村直、前田広道、辻井茂宏、北川博之、小林道也、花崎和弘	胃癌化学療法中に発症した静脈血栓症の2例	第55回日本腹部救急医学会総会 2019.03
16 並川努、石田信子、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、宗景匡哉、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	治癒切除不能進行再発胃癌治療におけるアルカリフォスファターゼの意義	第119回日本外科学会定期学術集会 2019.04
17 並川努、石田信子、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、宗景匡哉、前田広道、辻井茂宏、北川博之、小林道也、花崎和弘	胃癌に対する胃切除術後患者の骨塩量に関する検討	第105回日本消化器病学会総会 2019.05
18 並川努、石田信子、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、宗景匡哉、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	腹腔鏡内視鏡合同手術により切除した寄生虫による胃好酸球性肉芽腫の1例	第105回日本消化器病学会総会 2019.05
19 並川努、石田信子、横田啓一郎、岩部純、宗景匡哉、上村直、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘	ニボルマブが奏効した治癒切除不能食道胃接合部癌の1例	第73回日本食道学会学術集会 2019.06
20 Namikawa T, Ishida N, Yokota K, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K	Intrahepatic bile duct adenoma in a patient with gastric cancer	第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2019.06
21 並川努、石田信子、横田啓一郎、岩部純、宗景匡哉、上村直、前田広道、北川博之、長田裕典、小林道也、花崎和弘	根治手術13年後の再発胃癌に対して集学的治療を行った1例	第41回日本癌局所療法研究会 2019.06
22 並川努、石田信子、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、宗景匡哉、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	Nivolumabを用いた治癒切除不能進行再発胃癌の治療成績	第28回日本癌病態治療研究会 2019.06
23 並川努、前田将宏、津田祥、横田啓一郎、谷岡信寿、福留惟行、岩部純、上村直、宗景匡哉、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	腸音モニタリングシステムを用いた外科侵襲が腸蠕動に与える影響の検討	第26回外科侵襲とサイトカイン研究会 2019.07

著者名	演題タイトル	学会名
24 並川努、石田信子、横田啓一郎、岩部純、宗景匡哉、上村直、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘	治癒切除不能進行胃癌の予後予測指標として血清アルカリフォスファターゼの有用性	第 74 回日本消化器外科学会総会 2019.07
25 並川努、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、福留惟行、岩部純、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	胃癌術後消化器疾患の問題点と対策	第 28 回日本消化器疾患病態治療研究会 2019.09
26 並川努、前田将宏、横田啓一郎、谷岡信寿、津田祥、福留惟行、岩部純、上村直、宗景匡哉、前田広道、北川博之、駄場中研、岡本健、小林道也、花崎和弘	治癒切除不能進行再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤治療の現状	第 51 回日本臨床分子形態学会 総会・学術集会 2109.09
27 Namikawa T, Ishida N, Yokota K, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Maeda H, Tsujii S, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K	Conversion surgery after S-1 plus oxaliplatin combination chemotherapy for advanced gastric cancer with multiple liver metastases	第 57 回日本癌治療学会学術集会 2019.10
28 並川努、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、福留惟行、岩部純、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	消化管手術後胆道への内視鏡アプローチを考慮した再建術の評価	第 55 回日本胆道学会学術集会 2019.10
29 並川努、前田将宏、横田啓一郎、津田祥、谷岡信寿、福留惟行、岩部純、宗景匡哉、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	胃癌に対する 5- アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の臨床応用	第 37 回日本ヒト細胞学会学術集会 2019.10 (シンポジウム)
30 並川努	消化器内視鏡から学んだ内科と外科の接点	第 123 回日本消化器内視鏡学会 四国支部例会 2019.11 (特別演題)
31 並川努、前田将宏、谷岡信寿、津田祥、福留惟行、岩部純、宗景匡哉、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、井上啓史、小林道也、花崎和弘	5- アミノレブリン酸およびインドシアニングリーンを活用した光線医療技術の臨床応用	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11 (会長講演)
32 並川努	5- アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の臨床応用	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11 (イブニングセミナー)
33 並川努	手術中の腸蠕動観察～栄養管理と QOL 向上を考える～	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11 (ランチョンセミナー)

著者名	演題タイトル	学会名
34 並川努、福留惟行、岩部純、宗景匡哉、上村直、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	腹腔鏡内視鏡合同手術で胃局所切除を施行した胃静脈瘤併存早期胃癌の1例	第32回日本内視鏡外科学会総会 2019.12
35 谷岡信寿、大石一行、澁谷祐一、高島大典、大谷悠介、高杉遙、高田暢夫、桂佑貴、戸嶋俊明、松本尊嗣、須井健太、稲田涼、住吉辰朗、岡林雄大、尾崎和秀、福井康雄、中村敏夫	甲状腺乳頭癌を合併した肺多中心性 Castleman 病の一例	第47回中国四国甲状腺外科研究会 2019.02
36 谷岡信寿	肝嚢胞性疾患	第151回消化器疾患研究会 2019.07
37 谷岡信寿、上村直、宗景匡哉、前田将宏、横田啓一郎、津田祥、藤澤和音、福留惟行、岩部純、北川博之、前田広道、並川努、村上一郎、花崎和弘	リンパ上皮腫様胆管癌 (Lymphoepithelioma-like cholangiocarcinoma) の一例	第24回外科病理学会 2019.10
38 谷岡信寿、上村直、宗景匡哉、岩部純、北川博之、前田将宏、藤澤和音、横田啓一郎、津田祥、福留惟行、前田広道、辻井茂宏、駄場中研、並川努、花崎和弘	食道癌胃管再建、膈体尾部切除術後に右胃大網動脈の合併切除再建を伴う膈頭十二指腸切除術を施行した1例	第81回日本臨床外科学会総会 2019.11
39 廣瀬理沙、小原洋志、相良京、三浦由恵、土方康基、曾田泰、宮本将平、高橋聡、篠崎大、傳田珠美、田中幸久、大田泰徳、渡辺恵理、田中徹、中島元夫、木庭幸子、奥山隆平、福原秀雄、井上啓史、並川努、花崎和弘、谷憲三朗	5-ALA を用いた末梢血循環がん細胞検出法確立にむけたパイロット研究	第81回日本血液学会学術集会 2019.10
40 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	10年以上穿刺排液を繰り返した PEIT 不応甲状腺巨大嚢胞腫瘍の1例	第47回中国四国甲状腺外科研究会 2019.02
41 宗景匡哉、花崎和弘	同時性肝転移を伴う膈頭部癌に対して長期間の化学療法後に根治術を施行し得た1例	第50回日本膵臓学会大会 2019.09
42 上村直、谷岡信寿、宗景匡哉、花崎和弘	肝嚢胞として3年間の経過観察後手術を施行した IPNB の1例	第55回日本胆道学会学術集会 2019.10
43 上村直、北川博之、前田将宏、津田祥、谷岡信寿、藤澤和音、宗景匡哉、前田広道、並川努、花崎和弘	噴霧型癒着防止剤を使用した肝切除術症例の検討と今後の展望	第81回日本臨床外科学会総会 2019.11 (パネルディスカッション)

著者名	演題タイトル	学会名
44 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、 駄場中研、花崎和弘	当科における遠隔転移を伴わない 局所進行乳癌 (T4M0) の治療成績	第 119 回日本外科学会定期学術集会 2019.04
45 杉本健樹、小河真帆、沖豊和、 駄場中研、藤原キミ、花崎和弘、 執印太郎	コンパニオン診断・がんゲノム 医療時代の遺伝性乳癌診療への 多様なアクセスへの対応策の検討	第 25 回日本家族性腫瘍学会学術 集会 2019.06
46 杉本健樹、田代真理、小河真帆、 沖 豊和、藤原キミ、安藝史典、 高島大典、本田純子、駄場中研、 花崎和弘	乳癌診療での遺伝性腫瘍診療と がんゲノム医療への準備体制－ 当院と高知県の現状と課題－	第 27 回日本乳癌学会学術総会 2019.07
47 沖豊和	ホルモン陽性進行再発乳癌にお ける晩期も含めた palbociclib 併用内分泌療法法の検討	第 27 回日本乳癌学会学術総会 2019.07
48 沖豊和、杉本健樹、岡田衣世、 小河真帆、駄場中研、花崎和弘	先天性左胸筋欠損症を随伴した 両側多発乳癌の 1 例	第 16 回日本乳癌学会中国四国 地方会 2019.09 (優秀演題)
49 岡田衣世、杉本健樹、沖豊和、 小河真帆、駄場中研、花崎和弘	髄内転移により下肢麻痺を来 し、オラパリブが著効し歩行可 能となった BRCA2 変異陽性転 移性乳癌の 1 例	第 16 回日本乳癌学会中国四国 地方会 2019.09 (優秀演題)
50 杉本健樹、藤原キミ、橋田和佳、 小河真帆、沖豊和、岡田衣世、 山口真夏、片山奈知、尾崎恭子、 岡田由岐子、星川理恵	当院の乳癌・甲状腺癌領域にお ける分子標的薬の治療の現状 - チームで取り組む副作用対策 -	第 4 回日本がんサポーターブク ア学会学術集会 2019.09
51 杉本健樹、沖豊和、小河真帆、 岡田衣世、駄場中研、花崎和弘、 佐藤隆幸	カラー近赤外線蛍光カメラを用 いた乳癌センチネルリンパ節生 検の変遷と今後の展望	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11 (シンポジウム)
52 沖豊和、杉本健樹、岡田衣世、 小河真帆、駄場中研、花崎和弘	当科における乳癌の再発率と生存 率を中心とした治療成績の検討	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11
53 小河真帆、岡田衣世、沖豊和、 駄場中研、杉本健樹、花崎和弘	当科でのオラパリブ使用経験に ついて	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11
54 岡田衣世、沖豊和、杉本健樹、 小河真帆、駄場中研、花崎和弘	乳癌術前化学療法中に発症し薬 剤性間質性肺炎との鑑別に難渋 した癌性リンパ管症の 1 例	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11
55 杉本健樹	乳癌易罹患性を呈する遺伝性腫 瘍診療の基本－遺伝性乳癌卵巣 癌症候群 (HBOC) を中心に－	第 29 回日本乳癌検診学会学術総会 2019.11 (パネルディスカッション)
56 岡田衣世、並川努、前田将宏、 横田啓一郎、谷岡信寿、藤澤和音、 小河真帆、岩部純、宗景匡哉、 沖豊和、上村直、前田広道、 北川博之、羽柴基、山田高義、 水田洋、内田一茂、杉本健樹、 小林道也、花崎和弘	孤立性胃転移をきたした乳腺浸 潤性小葉癌の 1 例	第 123 回日本消化器内視鏡学会 四国支部例会 2019.11



著者名	演題タイトル	学会名
57 小河真帆、沖豊和、駄場中研、杉本健樹、並川努、花崎和弘	転移再発乳癌治療中の胃転移による通過障害に対しステント拡張でQOLを損なうことなく症状コントロールが出来た1例	第123回日本消化器内視鏡学会 四国支部例会 2019.11
58 北川博之、岩部純、横田啓一郎、石田信子、並川努、花崎和弘	縦隔鏡下左上縦隔郭清の有用性と課題	第39回四国食道疾患研究会 2019.01
59 北川博之、並川努、岩部純、横田啓一郎、石田信子、上村直、宗景匡哉、津田祥、小林道也、花崎和弘	食道癌手術胃管再建におけるICG蛍光法を用いた胃管血流速度測定と術後吻合部内視鏡所見および術後縫合不全の検討	第119回日本外科学会定期学術集会 2019.04
60 北川博之、並川努、岩部純、横田啓一郎、石田信子、上村直、宗景匡哉、津田祥、小林道也、花崎和弘	縦隔鏡下左上縦隔郭清先行胸腔鏡下食道切除術	第73回日本食道学会学術集会 2019.06
61 北川博之、並川努、岩部純、横田啓一郎、石田信子、上村直、宗景匡哉、津田祥、小林道也、花崎和弘	食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術後人工臍臓による血糖管理法の有用性	第74回日本消化器外科学会総会 2019.07 (ワークショップ)
62 北川博之	ICG蛍光法を用いた食道切除胃管再建における血流評価の有用性と課題	第62回関西胸部外科学会学術集会 2019.06 (特別企画)
63 北川博之、穴山貴嗣、渡橋和政、花崎和弘	オール高知で外科医を育成する「高知家外科専門医育成プログラム」	第94回中国四国外科学会総会・ 第24回中国四国内視鏡外科研究会 2019.09 (シンポジウム)
64 北川博之、岩部純、横田啓一郎、並川努、小林道也、花崎和弘	術中神経モニタリング装置を用いた右鎖骨下動脈起始異常を伴う食道癌の1例	第57回日本癌治療学会学術集会 2019.10
65 北川博之、並川努、岩部純、横田啓一郎、前田将宏、上村直、宗景匡哉、小林道也、花崎和弘	片肺換気時間の短縮を目的とした食道切除術における縦隔鏡下左上縦隔郭清併用胸腔鏡下食道切除術	第123回日本消化器内視鏡学会 四国支部例会 2019.11 (ワークショップ)
66 北川博之、岩部純、横田啓一郎、並川努、上村直、宗景匡哉、藤澤和音、山口祥、前田将宏、小林道也、花崎和弘	術前糖尿病を有する食道癌患者に対する胸腔鏡下食道切除術後人工臍臓を用いた血糖管理法	第81回日本臨床外科学会総会 2019.11 (パネルディスカッション)
67 駄場中研、福留惟行、岡本健、花崎和弘	炭酸ランタン水和物により糞便性イレウスを生じ、S状結腸穿孔を起こした1例	第81回日本臨床外科学会総会 2019.11
68 宗景絵里、志賀舞、宗景匡哉、小河真帆、松浦喜美夫、花崎和弘	私ワンオペ僕過労 ～家庭の問題から着想した男女共同参画のブレイクスルー～	第81回日本臨床外科学会 2019.11 (特別企画)

著者名	演題タイトル	学会名
69 Yokota K, Serada S, STsujii S, Hiramatsu K, Fujimoto M, Namikawa T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T	Antibody-drug conjugate targeting glypican-1 shows tumor growth inhibition in cholangiocarcinoma	第 57 回日本癌治療学会学術集会 2019.10
70 横田啓一郎、北川博之、前田将宏、谷岡信寿、津田祥、宗景匡哉、花崎和弘	腹腔鏡手術中に停留精巣を発見された成人鼠径ヘルニアの 1 例	第 81 回日本臨床外科学会 2019.11
71 藤澤和音、宗景匡哉、宗景絵里、上村直、前田広道、北川博之、並川努、花崎和弘	臍体尾部腫瘍に対する腹腔鏡下手術の有用性	第 112 回消化器病四国支部例会 / 第 123 回内視鏡四国支部例会 2019.11 (ワークショップ)
72 前田広道、福留惟行、津田祥、藤澤和音、岡本健、岩部純、宗景匡哉、上村直、並川努、花崎和弘	外科医の適正数	第 81 回日本臨床外科学会 2019.11 (ワークショップ)
73 前田広道、岡本健、福留惟行、志賀舞、藤澤和音、駄場中研、並川努、花崎和弘	メッシュを母体に発育したと考えられる大腸腹膜播種の 1 例	第 17 回日本ヘルニア学術集会 2019.05
74 前田広道、岡本健、藤枝悠希、金川俊哉、志賀舞、福留惟行、津田祥、並川努、小林道也、花崎和弘	大腸がん術後のリンパ節検索によって得られたリンパ節のサイズ(最大長径)についての検討	第 74 回日本消化器外科学会総会 2019.07
75 岡本健、前田広道、藤枝悠希、志賀舞、秋森豊一、小林道也、花崎和弘	大腸癌切除後の腸間膜内リンパ節検索における脂肪溶解法の有用性	第 74 回日本消化器外科学会総会、東京 2019.07
76 岡本健、福留惟行、前田広道、北川博之、駄場中研、小林道也	免疫組織学的検査で確定された巨大な類上皮型消化管外 GIST の 1 例	第 51 回日本臨床分子形態学会学術集会、久留米市 2019.09
77 小林道也、岡本健、花崎和弘	一例を大切に作る地道な努力と、Reverse Translational Research を意識した臨床外科医	第 81 回日本臨床外科学会総会、特別企画、高知市 2019.11 (特別企画)
78 岡本健、津田祥、福留惟行、前田広道、北川博之、並川努、小林道也、花崎和弘	地方での地域医療における外科医の役割—高知県の現状	第 81 回日本臨床外科学会総会、特別企画、高知市 2019.11 (特別企画)
79 岡本健、津田祥、福留惟行、前田広道、並川努、花崎和弘、小林道也	腹腔鏡下に摘出した後腹膜血管腫の 1 例	第 32 回日本内視鏡外科学会総会、横浜市 2019.12
80 大島雅之、藤枝悠希、坂本浩一、田浦康明、山根祐介、吉田拓哉、花崎和弘	胆道閉鎖症に対する尿中硫酸抱合型胆汁酸測定	第 56 回日本小児外科学会 2019.05

著者名	演題タイトル	学会名
81 荒木まり子、西本由佳、齋藤志穂、菊地広朗、藤枝幹也、細川卓利、新井淳一、大島雅之	インスリノーマの8歳女児例	第96回日本小児科学会高知地方会 2019.09
82 大島雅之、坂本浩一、花崎和弘	マクロゴール4000(モビコール)による小児慢性便秘・排便障害管理	第58回日本小児外科学会中国四国地方会 2019.09
83 大島雅之、坂本浩一、花崎和弘	便失禁に対するマクロゴール4000(モビコール)の使用経験	第24回日本小児外科QOL研究会 2019.11
84 大島雅之	「急がば回れ ～基本を大切に～」	第81回日本臨床外科学会 2019.11(特別企画)
85 菊池広朗、森下祐介、久川裕章、坂本浩一、大島雅之、藤枝幹也	MYCM増幅を認めた神経芽腫Stage4Sの乳児例	第61回日本小児血液・がん学会 学術集会 2019.11
86 大島雅之	シンポジウム3 新生児マススクリーニングにおける胆道閉鎖症	第46回日本マス・スクリーニング学会 2019.11(シンポジウム)
87 大島雅之、花崎和弘、星野絵理	AIテクノロジーを応用した新生児・乳児便色評価の試みについて	第46回日本胆道閉鎖症研究会 2019.11(シンポジウム)
88 大島雅之、田浦康明、山根祐介、吉田拓郎、花崎和弘	胆道閉鎖症に対する尿中硫酸抱合型胆汁酸測定の見直し	第46回日本胆道閉鎖症研究会 2019.11(シンポジウム)
89 大島雅之	マススクリーニングに向けての地域の取り組み -長崎県の現状-	第7回小児難病フォーラム in 仙台 2019.12(フォーラム)
90 花崎和弘	地域から世界へ発信する臨床外科学	第81回日本臨床外科学会総会 2019.11(総会会長講演)
91 宗景匡哉、坪井佳保里、塚田暁、宗景絵里、北川博之、並川努、花崎和弘	十二指腸潰瘍に伴う穿孔性腹膜炎に対して穿孔部十二指腸瘻造設による保存的加療が奏功した1例	JSPEN2019 2019.02
92 宗景匡哉、北川博之、津田祥、宗景絵里、福留惟行、上村直、並川努、花崎和弘	超音波内視鏡下胆管胃吻合術の早期ステント逸脱に伴う胆汁性腹膜炎に対して一期的内瘻化が奏功した1例	第55回日本腹部救急医学会総会 2019.03
93 Munekage M, Uemura S, Hanazaki K	A case of huge HCC of caudate lobe underwent isolated caudate lobectomy with long-term survival	第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2019.06
94 宗景匡哉、北川博之、上村直、並川努、花崎和弘	膵全摘における人工膵臓を用いた周術期血糖管理と術後炎症反応の見直し	第26回外科侵襲とサイトカイン研究会 2019.07(ワークショップ)

著者名	演題タイトル	学会名
95 宗景匡哉、北川博之、津田祥、宗景絵里、上村直、並川努、花崎和弘	肝切除周術期の栄養管理における大建中湯の有用性	第 56 回日本外科代謝栄養学会 学術集会 2019.07 (ワークショップ)
96 宗景匡哉、北川博之、藤澤和音、上村直、木岐淳、谷内恵介、耕崎拓大、並川努、花崎和弘	腓腫瘍と鑑別に難渋した腓神経鞘腫の 1 切除例	第 50 回日本腓臓学会大会 2019.07
97 宗景匡哉、上村直、谷岡信寿、北川博之、耕崎拓大、並川努、花崎和弘	術前診断に難渋した胆嚢捻転症の 1 例	第 55 回日本胆道学会学術集会 2019.10
98 宗景匡哉、北川博之、花崎和弘	麻黄湯の血漿中代謝物への作用と血中移行成分に関する研究	第 35 回日本耳鼻咽喉科漢方研究会学術集会 2019.10 (プレワークショップ)
99 宗景匡哉、宗景絵里、前田将宏、谷岡信寿、津田祥、横田啓一郎、藤澤和音、福留惟行、岩部純、上村直、前田広道、北川博之、駄場中研、並川努、花崎和弘	若手外科医数でみる外科医格差	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11 (ワークショップ)
100 宗景匡哉、上村直、宗景絵里、前田将宏、津田祥、谷岡信寿、藤澤和音、前田広道、北川博之、並川努、花崎和弘	超高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の治療意義	第 81 回日本臨床外科学会総会 2019.11
101 宗景匡哉、花崎和弘	肝臓外科における感染症対策としての栄養管理と血糖管理の両立	第 32 回日本外科感染症学会総会 2019.11 (シンポジウム)



## 業績:Grant (2019.1 ~ 2019.12)

### 科学研究費

---

日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[研究代表者] 並川 努

[研究課題名] 胃癌の内視鏡的粘膜切除における 5-ALA を用いた革新的光力学的診断の開発応用

[研究期間] 2017年～2019年度

日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[研究代表者] 花崎 和弘

[研究課題名] 人工膵臓は外科的糖尿病の糖毒性を解消できるか？

[研究期間] 2018年～2020年度

日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[研究代表者] 大畠 雅之

[研究課題名] 便色判別プログラムを利用した胆道閉鎖症早期発見のためのフィールド実証研究

[研究期間] 2018年～2022年度

### 受託研究費

---

臨床研究・治験推進研究事業 公益社団法人 日本医師会

[研究代表者] 並川 努

[研究課題名] 治験の実施に関する研究【5 A L A】(進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時における SPP-005 を用いた光線力学診断の有用性及び安全性を検討する多施設共同試験(検証試験))

[研究期間] 2017年8月28日～2020年3月31日

臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業

[研究分担者] 花崎 和弘

[研究課題名] 外科手術症例登録データならびに医療費データの連携に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究

[研究期間] 2016年10月17日～2019年3月31日

医療分野研究成果展開事業 産学連携医療イノベーション創出プログラム 基本スキーム【ACT-M】

[研究分担者] 花崎 和弘

[研究課題名] 脂質代謝を標的とした新規癌治療法の開発

[研究期間] 2018年9月18日～2021年3月31日

臨床研究・治験基盤事業 革新的医療技術創出拠点プロジェクト 橋渡し研究戦略的推進プログラム シーズ B

[研究分担者] 花崎 和弘

[研究課題名] 膵臓癌を標的とした抗体薬物複合体による革新的治療法の創出を目指した研究

[研究期間] 2018年9月25日～2019年3月31日

難治性疾患実用化研究事業

[研究分担者] 大畠 雅之

[研究課題名] 「胆道閉鎖症の早期診断に関する研究」における尿中硫酸抱合型胆汁酸に関する研究

[研究期間] 2017年4月27日～2020年3月31日

## 共同研究費

---

### 日機装株式会社

[研究代表者] 花崎 和弘  
[研究課題名] 正常ラット及び STZ ラットを用いた血糖変動モデルの作成  
[研究期間] 2017 年～ 2018 年度

### 株式会社ツムラ

[研究代表者] 花崎 和弘  
[研究課題名] 薬物動態-メタボローム統合解析による麻黄湯 (TJ27) の有用性・安全性についての研究  
[研究期間] 2016 年～ 2019 年 3 月 31 日

### 旭化成メディカル株式会社

[研究代表者] 並川 努  
[研究課題名] 調音を用いた臨床データ解析  
[研究期間] 2018 年 6 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日

## 補助金

---

### 一般社団法人 高知医療再生機構

[補助事業者] 花崎 和弘  
[補助事業名] 平成 31 年度専門医養成支援事業  
[事業期間] 2019 年度

[補助事業者] 北川 博之  
[補助事業名] 平成 31 年指導医資格取得支援事業  
[事業期間] 2019 年度

[補助事業者] 前田広道  
[補助事業名] 平成 31 年指導医資格取得支援事業  
[事業期間] 2019 年度

## 研究費 高知大学医学部附属病院

---

### 平成 30 年度高知大学医学部附属病院研究者表彰

[対象者] 北川 博之  
[事業名] 平成 30 年度高知大学医学部附属病院研究者表彰  
[受賞区分] 優秀研究者賞 (原著論文部門)  
[研究費授与] 2019 年 4 月

[対象者] 前田 広道  
[事業名] 平成 30 年度高知大学医学部附属病院研究者表彰  
[受賞区分] 優秀研究者賞 (原著論文部門)  
[研究費授与] 2019 年 4 月

### 令和 元 年度 病院長裁量経費における研究助成金

[対象者] 花崎和弘  
[事業名] 海洋に潰瘍リスクファクターの弱点を学ぶ：ピロリ菌ファージセラピー等の可能性  
[研究機関] 2020 年 3 月 31 日まで  
[研究費授与] 2019 年 7 月 1 日

[対象者] 前田広道  
[事業名] 創薬を見据えた海洋メタゲノム技術の応用と医用展開  
[研究機関] 2020 年 3 月 31 日まで  
[研究費授与] 2019 年 7 月 1 日

# 会員名簿

## [ 正会員 ]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
秋森 豊一	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 TEL:0880-66-2222 FAX:0880-66-2111	高知医科	昭和63年
荒木京二郎	〒780-8010 高知市棧橋通6-9-5-1006号	三重県立	昭和41年
安藤 徹	〒780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 緩和ケア科部長・外科 高知県高知市大膳町37 TEL:088-822-7211 FAX:088-825-0909	高知医科	平成3年
飯田 千子	〒783-0005 医療法人藤原会 藤原病院 高知県南国市大埴乙995 TEL:088-863-1212 FAX:088-863-5585	愛知医科	平成13年
石田 信子	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 高知県宿毛市山奈町芳奈3番地1 TEL:0880-66-2222 FAX:0880-66-2111	高知	平成28年
井関 恒	〒780-8040 JCHO 高知西病院 外科 高知県高知市神田317-12 TEL:088-843-1501 FAX:088-840-1096	岩手医科	昭和50年
市川 賢吾	〒500-8523 朝日大学病院 岐阜県岐阜市橋本町3丁目23番地 TEL:058-253-8001 FAX:058-253-5165	高知医科	平成15年
伊与木増喜	〒781-1105 医療法人いよき会 伊与木クリニック 高知県土佐市蓮池1227-5 TEL:088-828-5222 FAX:088-828-5223	高知医科	昭和60年
岩部 純	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成19年
上村 直	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成18年
氏原 孝司	〒780-0000 医療法人厚愛会 高知城東病院 高知市大津乙719	山口	昭和63年
白井 隆	〒781-6410 医療法人白井会 田野病院 高知県安芸郡田野町1414-1 TEL:0887-38-7111 FAX:0887-38-5568	岡山	昭和47年
宇都宮正人	〒780-8562 高知赤十字病院 外科 高知県高知市新本町2-13-51 TEL:088-822-1201 FAX:088-822-1056	高知	平成27年
大木 章	〒780-0844 医療法人博信会 中ノ橋病院 外科 高知県高知市永国寺町1-46 TEL:088-872-4069 FAX:088-872-4077	愛知医科	平成8年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
大畠 雅之	〒783-8505 高知大学医学部附属病院外科 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	長崎	昭和61年
宗景 絵里	〒781-2193 いの町立国民健康保険仁淀病院 高知県吾川郡いの町1369 TEL:088-893-1551 FAX:088-893-4892	神戸	平成21年
大海研二郎	〒780-0051 医療法人新松田会 愛宕病院 外科 高知県高知市愛宕町1丁目4番13号 TEL:088-823-3301 FAX:088-871-0531	高知医科	平成4年
岡田 衣世	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成29年
尾形 雅彦	〒781-5103 医療法人厚愛会 高知城東病院 外科 高知県高知市大津乙719 TEL:088-866-2326 FAX:088-866-5365	高知医科	昭和61年
岡林 雄大	〒781-8555 高知医療センター 外科 高知県高知市池2125-1 TEL:088-837-3000 FAX:088-837-6766	香川医科	平成9年
岡本 健	〒783-8505 高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2182 FAX:088-880-2183	高知医科	平成4年
小河 真帆	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1(乳腺センター) 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2139 FAX:088-880-2140	高知	平成19年
沖 豊和	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1(乳腺センター) 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2139 FAX:088-880-2140	高知	平成19年
尾崎 信三	〒780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 外科 高知県高知市大膳町37 TEL:088-822-7211 FAX:088-825-0909	高知医科	平成7年
柏井 英助	〒781-1101 医療法人広正会 井上病院 高知県土佐市高岡町甲2044 TEL:088-852-2131 FAX:088-852-2133	佐賀医科	平成元年
金川 俊哉	〒787-0331 医療法人聖真会 渭南病院 高知県土佐清水市越前町6番1号 TEL:0880-82-1151 FAX:0880-82-0429	徳島	平成15年
金子 昭	〒780-0824 医療法人高田会 高知記念病院 外科 高知県高知市城見町4-13 TEL:088-883-4377 FAX:088-882-6261	山口	昭和56年
上岡 教人	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 TEL:0880-66-2222 FAX:0880-66-2111	信州	昭和58年
川西 泰広	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 外科 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 TEL:0880-66-2222 FAX:0880-66-2111	高知	平成26年



氏名	勤務先	出身大学	卒業年
川村 達夫	〒780-8050 医療法人成仁会 快聖クリニック 高知県高知市鴨部 1085-1 TEL:088-850-0038 FAX:088-850-0120	日本	昭和46年
北川 尚史	〒780-0824 医療法人高田会 高知記念病院 外科 高知県高知市城見町 4-13 TEL:088-883-4377 FAX:088-882-6261	防衛医科	昭和55年
北川 博之	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知医科	平成15年
公文 正光	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL:0887-55-1101 FAX:0887-55-0177	群馬	昭和50年
久禮三子雄	〒596-0004 医療法人くれクリニック 大阪府岸和田市荒木町 1-8-8 TEL:072-444-9014 FAX:072-444-9082	高知医科	昭和59年
計田 一法	〒787-0331 医療法人聖真会 渭南病院 外科 高知県土佐清水市越前町 6-1 TEL:0880-82-1151 FAX:0880-82-0429	高知医科	昭和60年
小高 雅人	〒655-0031 医療法人薫風会 佐野病院 消化器がんセンター 兵庫県神戸市垂水区清水が丘 2丁目5番1号 TEL:078-785-1000	高知医科	平成9年
小林 昭広	〒270-2251 社会医療法人木下会 千葉西総合病院 千葉県松戸市金ヶ作 107-1 TEL:047-384-8111 FAX:047-384-9403	高知医科	平成5年
小林 道也	〒783-8505 高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2202 FAX:088-880-2702	高知医科	昭和59年
小松 優香	〒780-8522 社会医療法人近森会 近森病院 外科 高知県高知市大川筋 1丁目1-16 TEL:088-822-5231 FAX:088-871-7429	高知	平成29年
近藤 雄二	〒780-0833 医療法人生生会 下村病院 高知県高知市南はりまや町 1-7-15 TEL:088-882-7161 FAX:088-882-3634	高知医科	昭和60年
齋藤 卓	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 外科 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL:0887-55-1101 FAX:0887-55-0177	高知医科	平成12年
坂本 浩一	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	鹿児島	平成8年
志賀 舞	〒781-2193 いの町立国民健康保険仁淀病院 高知県吾川郡いの町 1369 TEL:088-893-1551 FAX:088-893-4892	高知	平成18年
西家佐吉子	〒780-0066 医療法人仁栄会 島津病院 外科 高知県高知市比島町 4丁目6番22号 TEL:088-823-2285 FAX:088-824-2363	川崎医科	平成14年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
白石 哲夫	〒781-6410 医療法人白井会 田野病院 外科 高知県安芸郡田野町 1414-1 TEL:0887-38-7111 FAX:0887-38-5568	高知医科	昭和 62 年
杉藤 正典	〒277-0803 医療法人社団葵会 千葉・柏たなか病院 消化器外科 千葉県柏市小青田 1 丁目 3 番地 2 TEL:04-7131-4131 FAX:04-7133-3154	高知医科	昭和 60 年
杉本 健樹	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 (乳腺センター) 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2139 FAX:088-880-2140	高知医科	昭和 60 年
高田 早苗	〒780-0824 医療法人高田会 高知記念病院 外科 高知県高知市城見町 4-13 TEL:088-883-4377 FAX:088-882-6261	関西医科	昭和 47 年
高野 篤	〒780-0806 特定医療法人久会 函南病院 外科 高知県高知市知寄町 1 丁目 5-15 TEL:088-882-3126 FAX:088-882-3128	高知医科	昭和 62 年
田島 幸一	〒781-8135 医療法人社団晴緑会 高知総合リハビリテーション病院 高知県高知市一宮南町 1 丁目 10-15 TEL:088-845-1641 FAX:088-846-2811	徳島	昭和 48 年
谷岡 信寿	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 26 年
谷口 寛	〒720-0802 医療法人社団健生会 いそだ病院 外科 広島県福山市松浜町 1 丁目 13-38 TEL:084-922-3346 FAX:084-923-0531	高知医科	平成 5 年
駄場中 研	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知医科	平成 5 年
田村 耕平	〒785-0036 医療法人五月会 須崎くろしお病院 外科 高知県須崎市緑町 4 番 30 号 TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582	島根医科	平成 12 年
田村 精平	〒785-0036 医療法人五月会 須崎くろしお病院 高知県須崎市緑町 4 番 30 号 TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582	岡山	昭和 47 年
辻 豪	〒789-1301 医療法人健美会 なかとき病院 高知県高岡郡中土佐町久礼 6614 TEL:0889-52-2040 FAX:0889-52-3680	川崎医科	昭和 55 年
辻井 茂宏	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	徳島	平成 16 年
津田 晋	〒780-8522 社会医療法人近森会 近森病院 外科 高知県高知市大川筋 1 丁目 1-16 TEL:088-822-5231 FAX:088-871-7429	高知	平成 26 年
都築 英雄	〒783-8509 JA 高知病院 外科 高知県南国市明見字中野 526-1 TEL:088-863-2181 FAX:088-863-2186	徳島	昭和 62 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
直木 一郎	〒784-0027 高知県立あき総合病院 外科 高知県安芸市宝永町 1-32 TEL:0887-34-3111 FAX:0887-34-2687	高知医科	平成 3 年
中谷 肇	〒786-0002 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 高知県高岡郡四万十町見付 902-1 TEL:0880-22-1111 FAX:0880-22-1166	高知医科	平成 10 年
中野 琢巳	〒362-0001 北上尾クリニック 埼玉県上尾市上 144 番地 2 TEL:048-779-2111	高知医科	昭和 62 年
永野 克二	〒880-0853 慈英病院 宮崎県宮崎市中西町 160 番地	高知医科	平成 8 年
中村 生也	〒787-0010 さくらクリニック 高知県四万十市古津賀 1463 TEL:0880-35-2555 FAX:0880-35-2572	高知医科	昭和 63 年
並川 努	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知医科	平成 3 年
橋詰 直樹	〒830-0011 久留米大学医学部外科学講座 小児外科部門 福岡県久留米市旭町 67 TEL:0942-31-7631 FAX:0942-31-7705	高知	平成 19 年
橋本 祥恪	〒781-1101 医療法人桔梗ヶ丘会 橋本外科胃腸科内科 高知県土佐市高岡町甲 750-1 TEL:088-852-5522 FAX:088-852-5305	日本	昭和 59 年
花崎 和弘	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	新潟	昭和 59 年
濱里 真二	〒782-0035 医療法人同仁会 同仁病院 高知県香美市土佐山田町百石町 2-5-20 TEL:0887-53-3155 FAX:0887-53-3096	長崎	昭和 57 年
浜田 伸一	〒786-0002 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 高知県高岡郡四万十町見付 902-1 TEL:0880-22-1111 FAX:0880-22-1166	高知医科	昭和 61 年
曳田 知紀		宮崎医科	昭和 55 年
福留 惟行	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 20 年
藤枝 悠希	〒650-0047 兵庫県立こども病院 兵庫県神戸市中央区港島南町 1 丁目 6-7 TEL:078-945-7300 FAX:078-302-1023	高知	平成 26 年
藤澤 和音	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 25 年
船越 拓	〒781-0011 医療法人防治会 いずみの病院 外科 高知県高知市薊野北町 2 丁目 10 番 53 号 TEL:088-826-5511 FAX:088-826-5510	高知	平成 18 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
古屋 泰雄	〒711-0906 松田外科胃腸科医院 岡山県倉敷市児島下の町 9-11-30 TEL:086-472-7383	高知医科	昭和 62 年
別府 敬		高知医科	昭和 63 年
甫喜本憲弘	〒780-8562 高知赤十字病院 第二外科 高知県高知市新本町 2-13-51 TEL:088-822-1201 FAX:088-822-1056	高知医科	平成 11 年
前田 広道	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知医科	平成 16 年
前田 将宏	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 29 年
松浦喜美夫	〒781-2193 いの町立国民健康保険仁淀病院 高知県吾川郡いの町 1369 TEL:088-893-1551 FAX:088-893-4892	弘前	昭和 49 年
松森 保道	〒781-1101 土佐市立土佐市民病院 高知県土佐市高岡町甲 1867 TEL:088-852-2151 FAX:088-852-3549	徳島	平成 2 年
水嶋 秀	〒603-8002 医療法人浜田会 洛北病院 内科 京都府京都市北区上賀茂神山 6	高知医科	平成 5 年
溝淵 敏水	〒787-0331 医療法人聖真会 渭南病院 高知県土佐清水市越前町 6-1 TEL:0880-82-1151 FAX:0880-82-0429	東京慈恵医科	平成 6 年
宗景 匡哉	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 19 年
森 一水	〒781-1101 土佐市立土佐市民病院 高知県土佐市高岡町甲 1867 TEL:088-852-2151 FAX:088-852-3549	徳島	昭和 48 年
森田 雅夫	〒785-8501 医療法人五月会 須崎くろしお病院 外科 高知県須崎市緑町 4 番 30 号 TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582	高知医科	昭和 62 年
安原 清司	〒780-0901 医療法人三和会 国吉病院 消化器外科 高知県高知市上町 1-3-4 TEL:088-875-0231	山口	平成 2 年
山口 祥	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 26 年
山崎 奨	〒781-1301 医療法人 山秀会 山崎外科整形外科病院 高知県高岡郡越知町越知甲 2107-1 TEL:0889-26-1136 FAX:0889-26-1799	杏林	昭和 54 年
山中 康明	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 リハビリテーション科 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL:0887-55-1101 FAX:0887-55-0177	金沢医科	昭和 55 年



氏名	勤務先	出身大学	卒業年
山本 真也	〒783-0022 社会福祉法人土佐希望の家 土佐希望の家 高知県南国市小籠 107 TEL:088-863-2131 FAX:088-863-2133	高知医科	平成元年
山本 恒義	〒780-0901 高知県高知市上 1-10-39	弘前	昭和 50 年
山本 拓	〒781-1103 医療法人 杏クリニック 高知県土佐市高岡町丙 64-1 TEL:088-856-6300 FAX:088-856-6301	杏林	昭和 62 年
吉本 忠	〒780-8121 医療法人山口会 高知厚生病院 消化器外科 高知県高知市葛島 1 丁目 9-50 TEL:088-882-6205 FAX:088-883-1655	高知医科	平成 3 年
横田啓一郎	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知	平成 26 年

## [ 特別会員 ]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
安藝 史典	〒780-0085 伊藤外科乳腺クリニック 高知県高知市札幌 12-10 TEL:088-883-6868 FAX:088-883-6879	広島	平成 6 年
内海 善夫	〒780-0051 医療法人新松田会 愛宕病院 高知県高知市愛宕町 1 丁目 4 番 13 号 TEL:088-823-3301 FAX:088-871-0531	鳥取	昭和 57 年
宇都宮博史	〒780-0844 医療法人博信会 中ノ橋病院 高知県高知市永国寺町 1-46 TEL:088-872-4069 FAX:088-872-4077	日本	昭和 53 年
岡 瑛世	〒783-0005 医療法人藤原会 藤原病院 高知県南国市大堀乙 995 TEL:088-864-1092 FAX:088-863-7173	北里	平成 22 年
岡添 友洋	〒780-0963 高知医療生活協同組合 高知生協病院 外科 高知県高知市口細山 206-9 TEL:088-840-0123 FAX:088-820-0409	藤田保健衛生	平成 19 年
岡林 敏彦	〒780-8040 医療法人弘仁会 岡林病院 高知県高知市神田 598-1 TEL:088-832-8821 FAX:088-832-8878	東北	昭和 37 年
岡林 弘毅	〒780-0861 県庁前クリニック 高知県高知市升形 4-3 TEL:088-823-6651 FAX:088-823-6743	群馬	昭和 44 年
小野二三雄	〒781-5102 医療法人小野会 おの肛門科胃腸科外科 高知県高知市大津甲 560-2 TEL:088-866-5500 FAX:088-866-2777	東京医科	昭和 47 年
上地 一平	〒780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 外科 高知県高知市大膳町 37 088-822-7211 FAX:088-825-0909	昭和	昭和 61 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
川村 貴範	〒780-0963 高知医療生活協同組合 高知生協病院 高知県高知市口細山 206-9 TEL:088-840-0123 FAX:088-820-0409	高知医科	平成 2 年
北村 嘉男	〒781-2110 医療法人光陽会 いの病院 高知県吾川郡いの町 3864 番地 1 TEL:088-893-0047 FAX:088-893-1250	徳島	昭和 43 年
公文 龍也	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL:0887-55-1101 FAX:0887-55-0177	岡山	平成 17 年
桑原 和則	〒780-8040 JCHO 高知西病院 高知県高知市神田 317-12 TEL:088-843-1501 FAX:088-840-1096	日本医科	昭和 43 年
桑原 道郎	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 外科 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 TEL:0880-66-2222 FAX:0880-66-2111	京都府立医科	平成 5 年
古賀真紀子	〒781-3521 医療法人十全会 早明浦病院 高知県土佐郡土佐町田井 1372 TEL:0887-82-0456 FAX:0887-82-2902	日本	昭和 57 年
島津 栄一	〒780-0066 医療法人仁栄会 島津病院 高知県高知市比島町 4 丁目 6 番 22 号 TEL:088-823-2285 FAX:088-824-2363	岐阜	昭和 44 年
島村 善行	〒270-2241 島村トータル・ケア・クリニック 千葉県松戸市松戸新田 21-2 TEL:047-308-5546 FAX:047-308-5547	京都府立医科	昭和 47 年
島本 政明	〒780-0841 医療法人島本慈愛会 島本病院 高知県高知市帯屋町 2-6-3 TEL:088-873-6131 FAX:088-873-6131	日本医科	昭和 44 年
高橋 淳二	〒780-0051 医療法人悠仁会 高橋病院 高知県高知市愛宕町 3 丁目 9-20 TEL:088-822-1616 FAX:088-822-3530	徳島	昭和 29 年
竹下 篤範	〒780-0863 医療法人竹下会 竹下病院 高知県高知市与力町 2 丁目 3 番 8 号 TEL:088-822-2371 FAX:088-822-2375	日本医科	昭和 40 年
竹増 公明	〒799-3202 たけます診療所 愛媛県伊予市双海町上灘甲 5350 番地 16 TEL:089-986-0909	愛媛	昭和 62 年
田中 誠	〒780-0901 医療法人産研会 上町病院 高知県高知市上町 1 丁目 7 番 34 号 TEL:088-823-3271 FAX:088-823-3275	三重県立	昭和 46 年
近森 正幸	〒780-0052 社会医療法人近森会 高知県高知市大川筋 1 丁目 1-16 TEL:088-822-5231 FAX:088-872-3059	大阪医科	昭和 47 年
次田 靖生	〒787-0303 医療法人次田会 足摺病院 高知県土佐清水市旭町 18-71 TEL:0880-82-1275 FAX:0880-82-5585	昭和医科	昭和 35 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
徳丸 哲平	〒 890-0062 社会医療法人緑泉会 米盛病院 鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目7番1号 TEL:099-230-0100 FAX:099-230-0101	山口	平成 17 年
長田 裕典	〒 781-0011 医療法人防治会 いずみの病院 外科 高知県高知市薊野北町2丁目10番53号 TEL:088-826-5511 FAX:088-826-5510	岡山	昭和 57 年
久 直史	〒 780-0806 特定医療法人 久会 函南病院 高知県高知市知寄町1丁目5-15 TEL:088-882-3126 FAX:088-882-3128	慶應義塾	昭和 50 年
福本 和生	〒 787-0013 医療法人社団樹人会 北条病院 愛媛県松山市河野中須賀288-5 TEL:089-993-1200 FAX:089-993-1700	岡山	昭和 58 年
細木 秀美	〒 780-8535 社会医療法人仁生会 高知県高知市大膳町37 TEL:088-820-4100	東京医科	昭和 42 年
堀見 忠司	〒 780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 高知県高知市大膳町37 TEL:088-820-4100	京都府立医科	昭和 45 年

## [ 名誉会員 ]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
溝渕 玲子	〒 787-0331 医療法人 聖真会 渭南病院 高知県土佐清水市越前町6-1 TEL:0880-82-1151 FAX:0880-82-0429	東京慈恵医科	昭和 40 年
味村 俊樹	〒 329-0498 自治医科大学消化器・一般外科学 栃木県下野市薬師寺3311-1 TEL:0285-44-2111 FAX:0285-44-8169	東京	昭和 63 年
村山 正毅	〒 740-0034 医療法人岩国みなみ病院 外科 山口県岩国市南岩国町2丁目77番23号 TEL:0827-32-4100 FAX:0827-32-4105	岡山	昭和 42 年
山本 浩志	〒 783-0011 医療法人地塩会 南国中央病院 高知県南国市後免町3丁目1-27 TEL:088-864-0001 FAX:088-864-0332	東京医科	昭和 47 年
夕部 富三	〒 781-0011 医療法人防治会 いずみの病院 高知県高知市薊野北町2丁目10番53号 TEL:088-826-5511 FAX:088-826-5510	自治医科	昭和 53
石黒 晴久	〒 781-1101 医療法人広正会 井上病院 高知県土佐市高岡町甲2044 TEL:088-852-2131 FAX:088-852-2133	杏林	平成 14 年
くぼかわ病院	〒 786-0002 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 高知県高岡郡四万十町見付902-1 TEL:0880-22-1111 FAX:0880-22-1166		

## [ 物故会員 ]

氏 名	出身大学	卒業年	逝去年月日
緒方 卓郎	岡山大学	昭和 29 年	平成 20 年 1 月 30 日
吉川 健	獨協医科大学	昭和 61 年	平成 20 年 3 月 10 日
清藤 敬	岡山大学	昭和 36 年	平成 20 年 5 月 1 日
寺田 紘一	鳥取大学	昭和 41 年	平成 20 年 6 月 29 日
泉山 史貴	杏林大学	平成 3 年	平成 21 年 1 月 12 日
阿部 哲朗	高知医科大学	昭和 59 年	平成 22 年 6 月 2 日
井上 廣	長崎医科大学	昭和 19 年	平成 23 年 6 月 23 日
半田 祐彦			平成 24 年 5 月 9 日
溝渕南海郎			平成 26 年 8 月 18 日
川村 明廣	大阪医科大学	昭和 53 年	平成 28 年 12 月 21 日



# 高知大学医学部外科学講座外科一教室同門会会則

## 第1条（名称）

第1項 本会は、高知大学医学部外科学講座外科一階風会（以下「本会」）と称する。

## 第2条（目的）

第1項 本会は会員相互の親睦を図り、かつ知見の増進に努めることを目的とする。

## 第3条（会員）

第1項 会員は以下の者をもって構成される。

1. 高知医科大学第一外科教室および高知大学医学部外科学講座外科一教室の出身者ならびに現教室員とする。

第2項 特別会員は、正会員以外で本会の主旨に賛同し、所定の会費を納入する者。

第3項 会員は、本会の目的に賛同し、総会で承認された者とする。

## 第4条（組織）

第1項 本会は次の役員を置き、本会の運営にあたる。

1. 会長1名、理事3名、幹事3名、会計監事2名

## 第5条（役員）

第1項 名誉会長は前会長とする。

第2項 会長は高知大学医学部外科学講座外科一教室の教授とする。

第3項 理事は会長が推薦し、総会によって承認する。

第4項 幹事は会長が推薦し、一般会務の処理を行う。

第5項 会計監事は会長が推薦し、一般会計の監査を行う。

第6項 役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

## 第6条（役員会）

第1項 役員会は、本会の運営に関する事項について協議決定する。

第2項 役員会は、会長が必要と定めた時、または役員より要請があった時に召集する。

## 第7条（総会）

第1項 本会は、年1回定例総会を開催する。

## 第8条（会計）

第1項 本会の会計は年会費および寄附金等により運営する。

第2項 年会費は細則で定める。

第3項 会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

## 第9条（退会）

第1項 会員が死亡したとき。

第2項 会員が退会を希望し、総会で承認されたとき。

## 第10条（除名）

第1項 会員が以下に該当するときは、総会の議決を経て会長が除名することができる。

1. 会員としての義務を怠ったとき。
2. 本会の名誉を著しく傷つけたとき。
3. その他、上記以外に除名に該当する言動があったとき。

## 第11条（事業）

第1項 本会は以下の事業を行う。

1. 会報の刊行。
2. 高知大学医学部外科学講座外科一教室の活動の援助。
3. その他、第2条の目的を達成するために必要な事業。

## 第12条（会則の変更）

第1項 本会則は、総会出席者の過半数の賛成により変更することができる。

## 第13条（事務局）

第1項 本会の事務局は、高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科一教室内に置く。

第2項 事務局は本会の庶務一般、会費の徴収、会計事務等を行う。

## 附則

1. 役員は本会の円滑な運営を計るため、必要に応じて細則を定めることができる。

## 細則

1. 年会費は以下の通りとする。
  - 1) 正会員は年8,000円。
  - 2) 特別会は年5,000円。

この会則の改定は、平成30年5月12日より施行する。

## 高知大学医学部外科学講座外科一教室同門会役員

(平成 30 年 5 月 12 日)

会 長	花崎 和弘
理 事	島津 栄一
理 事	小林 道也
理 事	並川 努
幹 事	杉本 健樹
幹 事	駄場中 研
幹 事	北川 博之
会計監事	田村 精平
会計監事	公文 正光

[ 事務局 ]

高知大学医学部外科学講座外科一教室

## 編集後記

---

2019年（令和元年）ラグビーのワールドカップが日本で開催され、日本代表が予選を全勝で通過するという歴史的な偉業を達成した。初めて進出したベスト8でも優勝国の南アフリカを相手に堂々とした戦いを挑み、多くの国民に感動を与えた。「にわかラグビーファン」も出現して、最高の盛り上がりを見せた。

私は大学時代の6年間を勉強そっちのけでラグビーに没頭した。にわかではない、正真正銘のラグーマンである。ラグビースピリットとして最も有名な「One for All, All for One」は組織を運営する極意とも言えるlast wordである。

ラグビー同様に組織を強くするためには一人一人の個人が強くならなければいけない（One for All）。個人を活かすためには組織全員が一致団結する必要がある（All for One）。ラグビーは紳士のスポーツである。ラグーマンは何よりもノーサイド精神を重んじる。すなわちラグビーは全員がヒーローであり、1人のヒーローだけで試合に勝てるほど甘くない。ラグビーは全てのスポーツの中で最も自己犠牲を強いられるスポーツかもしれない。

外科医不足が叫ばれて久しい。外科医はラグーマン同様に最も自己犠牲の多い職種の一つではないかと感じる時がある。外科医の多くは、患者さんや患者さんのご家族や仲間が喜ぶ顔が見たくて自己犠牲も厭わない人間が多いのではないだろうか。

残りの人生がどのくらいあるか誰も知らない。最近つくづく思うことは「利他主義の生き方の方が利己主義な生き方よりも喜びが大きい」ということである。限りある人生を愛する家族だけでなく、少しでも多くの患者さんや仲間が喜ぶ顔を見ながら生きていけたらと願う。

ラグビー万歳！！

花崎 和弘



## 同門会誌 楷風 (年報) 第 14 号

---

発行人 花崎 和弘  
発行所 高知大学医学部外科学講座外科 1 同門会  
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮  
令和 2 年 5 月発行  
印刷・製本 株式会社リーブル

---

医局のホームページも是非ご覧ください♪  
[http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm\\_srg1/index.html](http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm_srg1/index.html)





